監獄雜誌

第八卷第三号

目録

● 論説
● 三好退蔵氏創立の感化學校に就て所感を記す 小河滋次郎 (一頁)

● 講話
● 全國典獄の召集會を望む 留岡幸助 (八頁)

● 特別寄書
● 犯罪の原因に就て 富山坊主人 (十一頁)

● 雜報
● ニューヨーク市の監獄 一日庵主人 (十五頁)

● 明治二十九年一月十七日伯林獄小河君の書翰に就て 浪士 (十五頁)

● 監獄監視法案に就て 浪士 (十五頁)

● 裁刑せられたる囚徒に對して餘罪の發覺したる場合 浪士 (十五頁)

● 無期刑の囚徒にして特典を以て裁刑せられ有期刑となつたる者に對する監視の有無を論ず 浪士 (十五頁)

● 重罪囚徒費用に關する法律案 浪士 (十五頁)

● 重罪囚徒費用に關する法律案 浪士 (十五頁)

● 寄書
● 數件 (三十七頁)

警察監獄學會發兌

● 寄書規定

- 第一 監獄雜誌へ掲載の材料として玉稿御送付被下候節は、罫紙、白紙を問はず、半紙、美濃紙の内を以一行(若くは二)二十三字詰となし、其字体を判明に、且假名は可成平假名にて御記載相成たし但鉛筆は植字の際消滅し易きを以て普通の筆墨にて御認め被下たし
  - 第二 質疑、應答の外は一項毎に都て別紙に御記載相成たし但問答と雖質疑と應答とは又別紙に御認めあらんとを乞ふ
  - 第三 表題、(地名署名)姓名(又は號)は本文の前に御記載被下若し御匿名なるときは地名(署名)姓名は編輯部参考の爲め欄外に御認め相成たし
  - 第四 質疑に對する應答中緊要と認る事項に就ては、學士大家の審査を乞ひ其明解を付するとあるへし
  - 第五 毎月二十日前(十二月は特)本會へ御送附の分は其月發行の本誌へ、其以後到達の分は翌月の誌上へ掲載すへきものと御承知被下たし
- 質疑の應答は勿論本誌全体の記事に就き議論を上下せらるゝ時は可成次號へ投書相成たし

○ 廣告

留岡 幸助 君 著

感化事業之發達

定價 十八 錢
郵 稅 四 錢

我國今日まで未此種の書あらず、我國民は不幸にして未だ此種の事業に其趣味を有せざる也、而も早晩、眞面目なる政治家、宗教家等の眼中に實際問題として映じ來るべきは實に此問題に外ならず、若し日本たるもの物質的文明而已を以て満足する能はずんば社會改善の最大要務として是非とも此問題に到るせずんば止まじ、

本書は著者自ら米國各洲に遊歴し、監獄及び感化事業の現況を視察し其研究する處を以て歐洲各國に於る此事業の實例を列舉し、進んで我國の事情に應用すべき方法を論究したるもの也、

書中感化院と監獄の關係を論する一章の如きは犯罪を減少し、犯罪者を改良せんと欲する、施政家の一讀せざる可らざるものなり、

○題字 司法大臣清浦全吾君 ○序文 前大審院長三好退藏君、巴黎万國監獄大會政府委員小河滋次郎君、湖邊士、○自序 總論感化事業の精神と其方法 ○第一章 紀元前的小兒に對する社會思想

と紀元後に於る救兒事業の嚆矢第二章 獨佛米に於る救兒事業 ○第三章 英國感化院の發達 ○第四章 惡少年の發生 ○第五章 少年犯罪者に對する文明國の法律 ○第六章 我邦少年犯罪者に關する刑法の沿革 ○第七章 感化院と監獄の關係 ○第八章 感化院設立に關する方策、

故に必ずしも國家總論の政治家と言はず、必ずしも慈眼愛賜の宗教家と言はず、苟も社會改良の高志を懷くもの、必ず一本を備へて研究せざる可からざるものなり、而して文章の流暢、思想の健全なるは讀下の際必ず腦裏に反映せざる可らず敢て茲に喫筆を勞せず、

發 兌

東京橋區出雲町一番地

警 醒 社 書 店

北海天福堂主人編

第二版

立志美談

定價金三十錢

郵稅四錢

右は極めて平易なる文章を以て偉人志士の傳を記述し細かなる書を挿し教導訓誨のために編したるものなるにより監獄署の備附圖書として囚人貸與の書籍に宜しく又保護場感化院の看護書籍に適ふものなり既に府縣監獄署に用ゐられたる向き十數縣あり一本を試閱し其用に當てられんことを希望す

東京澁谷村宮益町三十八番地

同情會

爲替は青山郵便局へ御拂込を乞ふ

監獄雜誌第八卷第三號

論 說

●三好退藏氏創立の感化學校に就て所感を記す

小河 滋次 耶

社會文明の進歩するに従ひ人口漸く蕃殖し、人口蕃殖するに従て生存競争の作用、益々烈しく生存競争の結果は常に甚しき貧富の懸隔を致すのみならず貧窶無告の徒、次第に其數を加へ失望は忿怒となり忿怒は自暴自棄となり自暴自棄の趨く所は義理人情も之を顧るに遑あらず終に法律道德の羈絆を脱して相率いて惡漢無賴の群に投じ窃盜掠奪、あらゆる亂暴狼藉を働いて以て人を傷ひ社會を害するに非ざれば則ち止まず、是れ我國、近年、著しく犯罪増加の顯象を見る所以にして今日の趨勢を以て之を推せば將來、尙ほ幾多の監獄増築の必要を見るに至り獨り監獄警察費の増加せる負擔に苦むのみならず無形及有形上間接及直接に吾人及國家が受くる所の危害損傷も亦た實に測り知る可らざらんとす人、或は世の犯罪を以て之を戰爭又は疫癘の慘毒に比せんとす、戰爭及疫癘の慘は則ち慘ありと雖も然かも其毒は一時に止まり妖雲、忽ち霽れて煌たる明月を見るの望みなきに非ざれども世の犯罪なるものに至つては則ち然らず、永劫無窮、種々として絶へざる絲の如く又其傳播力の烈しきはパチルス（Pachyderm）の烈しきよりも尙ほ烈しく親は子に傳へ子は孫に遺し一人、之れに陥るときは萬衆、忽ち其感染する所となり、一年三百六十五日、常に白刃を提げて吾人

に迫る、吾人は之を防禦するが爲めに絶へず幾多の財産及努力を犠牲に供せざる可らざるのみならず尙ほ吾人をして戦々競々として一日も生業に安んずるの迫あざらしむ其國力を萎縮し社會民人の康福安寧を傷害するの大なること啼だに戦争及疫癘の惨毒のみに非ざるなり、我國近來に至り世人が漸く監獄改良、貧民救済、出獄人保護、勞働者扶助、浮浪者取締等の所謂社會問題なるものに注意を惹くに至りたるは社會進歩の原則に對して必然、免るべからざる不幸中の幸と謂ふべく這般諸種の問題にして若し幸に適當に解釋せらるゝを見るの日に至らば蓋し彼の恐るべき犯罪に由り社會の受くる危害は著るしく之れが減少を見るに至るを得べしと雖も然かも予輩は同じく社會問題の一に屬し殊に最も先きに注意せられ研究せらるべき彼の所謂不良少年感化事業なもものに對し當局政府を始め一般世人が普として殆んど關知する所なきが如きは尙かに深く疑訝且つ嘆慨に堪へざる所なりとす

然るに頃日、予輩の聽く所に由れば前大審院長三好退藏君、夙に此に慨する所あり、苦心計營の末、終に自ら率先して資力を投じ新たに東京府下に感化學校なるものを起し世の所謂不良少年若くは彼の漂々、頼るなき無告の幼年子弟を收養し之れに向て大に感化教育の道を施す所あらんとす予輩は進退ながらも社會の爲めに斯くの如き美舉の今日に起りたるを慶せざるを得ず殊に名望ある三好君其人の如き大家が自ら率先して此事業に献身せられたるは前途、最も好希望なりと云ふべく政府は由て以て惰眠を破るべく社會は壺漿して之を歡迎すべし蓋し彼の普通民家の子弟を教育して之れに理非辨別の能力を與へ以て未來の良國民を養成する所の學校なるものゝ社會公共の事業に屬し從て國家及市町村が之が負擔の責に任せざるべからざると同じく此の既に罪惡に陥り若くは將さに陥らんとする不良少年を収養矯治して以て未來に於ける社會有用の良民を養成するの目的たる感化事業の如きも等しく亦た其性質に於て國家及市町村の責任に屬すべきものなること事理の當さに然るべき所なりと雖も時勢の必要は今や焦眉に迫り決して理に拘々

たるを許るさず彼れ非情の形骸より血の注ぎ出づるを望むは恰かも百年黄河の澄めるを俟つと一般なるが故に寧ろ先づ進んで社會の爲めに個人的熱血を此に注ぎ其溢れる數滴をして非情なる彼れ社會公共の掬取せしむる所となるを俟つに如かず泰西諸國に於ける感化事業沿革史の教ふる所亦た斯くの如くにして前途幾多艱苦あるは蓋し創立者の豫期する所あるべしと雖も徳不孤必有隣百難に屈せずして斯の天職に鞠躬盡瘁するの結果は幾十年の後、却て自ら其美の意外に燦爛たるを驚くに至るべし(以下次號)

●全國典獄の召集會を望む

從來の實驗に依れば我國犯罪の増減は季節の寒暄に伴ふて昇降あるは少くとも其原因の一要素たるは將に明かなる事實にして、毎年春夏の交は全國在監人の最も減少を見るの時期に際す、是れ恰も季節漸く温暖を告げ薄衣輕裘以て能く身を支ふるに足ればなり、而して之れが反對に秋氣天漸く寒く朔風肌を襲ふの季節に至れば犯罪は頗る増加し前日に陪寢するの狀況を呈するは統計の示す所にして、要するに細民の飢寒を凌ぐに備へなく、衣食の窮乏に餘養なく茲に至るの原因に職由せずんばあらざるなり

今や犯罪最多の時期は將に經過し漸く在監人の減少を見るの季節に近からんとす、故に毎年此季節を以て時の内務大臣は全國典獄を内務省に召集し獄政に關し訓示を垂れ及び職務に關する諸般の事項を諮問せらるゝを以て例とせり、回顧すれば昨年四月板垣伯入つて内務の顯職に就き就任早々此舉あり親しく獄政の方針を訓示せられ及諮問せらるゝ所あり、爾來引續き自ら出馬し各監獄を巡視せらるゝ等、監獄の天地漸く多事ならんとするの際、彼の三陸大海嘯事件の爲め倉皇歸京し直ちに三陸地方に出張巡視せられ後幾何ならずして内務大臣の交迭となり、引續き内務次官の辭職となり、警保局長の交迭となりたるより折角曩きに板垣伯在官の當時其僚屬に命じ調査せしめられたりと云ふ監獄改良問題は其一二を除くの外未だ成案

となり公然發布せらるゝに至らずして荏苒今日に至れるは斯學の爲め惜みても尙餘りありとす、而て現任内務大臣以下次官局長の就職以來親しく全國典獄を召集し獄政の方針を訓示、諮問せらるゝは實に今後に於て施行せらるべき典獄の召集を以て嚆矢となす、去れば目下全國在監人減少の期節と云ひ且は今回萬國に比類なき減刑令發布後の善後策として其筋より訓令指示せらるべき事項多々益々之れあるべしと信す、加之ならず先年佛國巴黎府萬國監獄會議に列席の爲め特に派遣せられたる小河滋次郎氏の無事歸朝せらるるあり、氏は素と監獄に關する理術を専攻せられ疾くに此社會に令聞高く尙其上に滯歐正に二年歐洲各國最近の獄制を精研せられたる結果、氏が齎らし來られたる錦囊材料は實に斬新監獄學中粹の粹たるものとして全國監獄當局者の一日も早く聞かんことを欲する時期あるに於てをや

既に冒頭に記述せしが如く全國典獄の召集は從來多く春夏の交に行はれ又最近數年來毎年殆んど此召集あらざるなし、是れ皆其時機の宜しきを得たるものと信せり況んや前述の如く内務大臣以下次官局長交迭以來初期の召集にして訓示せらるべき事項多かるべきは勿論、小河滋次郎氏が歸朝後の好土産を全國典獄に披露講話せしめらるゝの好時機なるに於てをや、去れば本期に於て聞かるべき典獄召集會は數年來の例會と異なり夥多治獄上の難問を研究せしめ監獄改良に裨益を與ふるもの決して尠からざるべしと信す冀くは一日も此召集令の早かれがしと云云

●監獄教誨論

留岡 幸助

普通の民をして義に就き道を行はしむること容易のことにあらず、況んや公法を犯したる囚徒をや、監獄改良上囚徒を提誨する教誨の如きは至難中の一至難にして此問題を適切に解釋するものは監獄改良てん問

題の十中八九は成功せりと云ふも過言にあらざるべし、思ふに宗教は人を感化する點に於ては實に魔力を有する程勢力あるものにして、道義の示導にして感化し能はざる罪囚も宗教を以てせば容易に感化し得るものたること少しく監獄教誨に志あるもの何人も信んじて疑はざる所なり、然らば即ち監獄官たるもの人心を感化するに神通力ある宗教は須臾之を利用して可なり、否利用せざる可らざるの理ありて存す、嘗に此を利用して而已ならず自ら宗教の人となりて間接直接に彼等を訓導提誨するにあらずんば所詮彼等が改良は得て期す可らざるものあり、

犯罪者の宗教一つにして足らず、或は基督教を信んじ、或は佛教に依り、或は神道を奉するが如し、以是典獄たるものは全然宗派心以外に立ちて以て犯罪者の心靈を幸福の境涯に導かざる可らず、宗教の感化事業に効力あるは日星の事實にして魔力も又及ばざるべし、然れども魔力以上の勢力ある宗教も此を實施する方法と其人物如何によりては恐怖すべきの弊害を醸生するものなれば當局者たるもの此點につきて謹嚴の注意なくんばある可らず、

我國に於る監獄教誨は頗る不公平なり、内務省の方針たるや一つに佛教を以て教誨の專賣となすもの如し、昨年四月全國の典獄を徵集して監獄上に關する各種の諮問をなせしことあり、其諮問案第三に曰く

教誨師は主として佛教徒より此を採用するを可とすべし實際の便否如何

此れ其諮問案なり、内務省の教誨方針たるや其れ斯の如し、地方の典獄たるもの教誨は佛教に限ざるもの如く誤解するは無理からぬ次第なり、

眼を開きて歐米各國に於る監獄教誨なるものを見よ、思ひ半ばに過ぐるものあらん、歐米何れの監獄を問はず苟も公平な教誨方針を執る監獄ならんには一派の宗教に偏倚せず、舊教あり、新教あり、猶太教ありて信仰の歸依を妨げず、機會を與へて大に此を獎勵するなり、然れども典獄たるものは新教徒たるもの

あり、舊教徒たるものありと雖己が信奉する宗派を以て之を在監者に強ゆるが如き失態をなさず、蓋し政府にして憲法上宗教を自由に公許したる以上は罪囚と雖典獄一己の私見を以て此を拒くべきにあらず、元來宗教なるものは物質以上のものにして其尊ぶ所以は良心の自由なるにあり、罪惡を脱離して天と交り、神と遊び、俗態を離れて聖善を希ふものなれば宗教問題語を換へて言はば信仰なるものは即ち良心問題なればなり、然るを政權を以て一時信仰を壓抑したればとて何程の効がある却て害ありて益なき而已、

吾人が罪囚改良の要素として宗教に重きを措く所以蓋し一日の故にあらず、論者は言ふならん宗教と一口に言へば同一の如くなれどもキリスト教あり、佛教あり、神道あり、儒教あれば忽ち此を混同無差別に論ず可きものにあらず、と素より宗教に區別あり分派の多岐なるは既に業に知る所、然れども法律を以て之を國民に公許したる宗教は宜敷之を監獄に公許すべきこと理の正さに然るべきことなり、吾人は何れの宗教を監獄に採用す可きかは第二の問題として茲に論せず苟も感化に益ある宗教は宜敷採て以て罪囚感化に利用すべきこと當然なりと信ず、再び謂ふ何れの宗教を採用すべきかは第二の問題ならざる可らず、乞ふ左に監獄教誨實施に關する卑見を述べん、

第一、典獄は宗派心を懐く可らず、此れ尤も罪囚感化に大切なる一問題なり、典獄なるものは公平無私を以て罪囚間に聞へざる可らず、一視同仁を以て臨まざる可らず、公平至直の人物は一宗派に偏して他派を排斥する如きは謹んで爲す可きとにあらず、素より典獄たるもの何れの宗教を信奉するも敢て妨げなしと雖その信する所を以て此を在監人に強ひんとするに至りては弊害百出す可し、故に宗教問題には典獄たるもの宜敷超然主義を取らざる可らず、俗臭粉々たる職業的宗教家の變に倣ふ勿れ、

第二、宗教を自由に在監人の信仰を妨ぐる勿れ、

佛も國家が認めて以て信仰を自由にしたる宗教を拒絶せんとするは監獄改良策の得たるものにあらず、感化上魔力を有する宗教は監獄にも之を歓迎すべし、宗教が罪囚改良に力あることにつきては今更述ぶるの要なしと雖事實至大の問題に涉るを以て泰西の名士が宗教に對して聲言したる嚴正なる數語を引かん、

博士イーシーワインズ曰く罪囚改良の諸要素中宗教はその最肝要なる一要素なり、蓋し宗教は人生及人心に万能力を有すればなり、或人第十八世紀中尤も有名なる司獄官吏の一人なるモーセス・ピルスパリーに問ふて曰く朝夕の祈禱及毎日曜宗教々誨の實施する教誨堂監獄に徹りせば感化事業は果して如何になりゆく可きやモーセス・ピルスパリー答て曰く「此れ恰も積荷の重き船が舵なく羅針盤なく海圖なくして茫洋たる大洋を航海するが如し」と宗教は道念の増減したる罪囚の騷擾にして不安ある精神を鎮制する惟一の勢力なり、(ワインズ監獄學六百二十二項)

と又以て罪囚改良上宗教勢力の如何を知るに足る可し、

第三、教誨師の人物、宗教果して感化事業に万能力ありとせば如何なる宗教を採用すべきか、蓋し我國にはキリスト教あり、佛教あり、神道あり、儒教あればなり、此は是れ大切な問題なりと雖吾人は此よりも更に緊要なる一問題あるを信ず、即ち教誨師の人物是あり、素より宗教の異なることによりて其効果に厚薄あり、結果に差異あるは明らかなることなりと雖尙此よりも更に肝要なるものは教誨師の人物是なり教誨師の人物にして野卑からんか基督教頼むに足らず、佛教依る可きにあらず、不人物ある教誨師の口より出づる金言法話は適々以て聽者の反抗心を惹起する所以にして害ありて益なきなり、余は金言法話を害ありとは言はず、不人物なる教誨師が汚したる金言法話は適々以て聽者の反抗心を惹起するものなりと云ふを以て止むべし、然らば即ち如何なる資格の教誨師を監獄に招聘す可きか、

(未完)

講義

本欄は朝野有力者の講演談話にして監獄改良上に裨益多かるべしと信ずるものを蒐集掲載し世の同攻の士に紹介せんとの微衷に出づ讀者幸に諒せよ
記者誌るす

●囚徒保護 (法相談)

頃日放免囚徒の保護に關し清浦法相の語る所今日に切實なるを以て左に採録す
今度の大赦減刑に依りては長く牢獄の裡に呻吟せし囚徒の出獄を免された者凡一萬二三千もある此天恩の趣旨を貫徹せしむるが爲には典獄も特別の注意もし又地方官には命令を下して前途改悛の實を挙げ優渥する天旨の萬分の一にも副ふ様に勉めて居る集治監より放免せられたる囚徒の内には一人にて蓄積せる賃が百圓若くは百二十圓に達する者もあるが元來歐羅巴では囚徒の勞役に蓄積せる賃銀は放免の時分に直接其囚徒に渡さず之を地方の村長とか其親戚とかに送附する仕組になりて居るから囚徒が出獄

すると直に飲酒登樓の爲に消費して數年間の勞苦を烟散霧消せしむるの恐がない其改悛に歸り着かねば金が取れない故郷に歸れば自然と企業に就くの傾向を生ずる日本でも斯の如き方法を行ふ様にしたい余は獨逸に居る時放免囚徒保護會に臨んだことがある同會には内務省司法省等の高等官、教會の教師や諸會社、銀行等の支配人等も臨席して居る元來獨逸にては監獄の制度は家族的である多くても一監獄の囚徒は八百人に上ることはない故に典獄は各囚徒の氣質長所等も熟知し居る出獄すると直に各其長所に從て職業を與へる周旋をする放免囚徒保護會も職業を與へる世話をする、最も大切なることは職業を與へて正業に就かしむることである斯くすればこそ囚徒改悛の實を挙げることが出来る日本にも今迄放免囚徒保護會の如きものがないではないが其方法を見るに通例共同寄宿舎を設けて授産場の如きものを造り幾人も放免囚徒を集める是では其効果を收めることは六箇敷い元來犯罪は傳染症的又遺傳的のものである故に西洋では監獄の分房制度が盛に唱られて居る日本でも犯罪の種類に依りては分房制度を實行して居る斯くの如く傳染的の性質を有するものあれば

共同寄宿舎の如きものでは中々放免囚徒保護の目的を達することが出来ない却つて之を惡に導く結果を生ずるに過ぎない日本にも早く完全なる放免囚徒保護會が欲しい今少し分房の制度を洽くし其他不真子弟感化場の如きものを設けなければならぬ今日日本では囚徒の總數が七萬人許であるが統計に據るに其中改悛するものは僅に三萬五千人内外其他は再犯三犯甚しきは六犯七犯に至るものがある是れ保護の法其宜しきを得ないからである又監視法の餘り嚴密なるは決して囚徒に改悛の實を挙げしむる所以でない監視を受け居る間は世間で其人を信用しない獨逸に囚徒が監視に對して云ふた語として人口に膾炙したものがあゝ「監視法よ、監視法は吾々の麵麩を奪ふものである、吾々の衣を剥ぐものである、吾々をして風塵に立たしむるものである」と日本などでも今少し監視法を改めて囚徒をして毎月二回警察署に出頭して徒に儀式的に私は謹慎をして居りますと云はしむることを止めて警察官の方より見廻る方が其者の作業を妨害せず改悛せしむる目的に適ふと思ふ云々

近來北海道獄制改正問題起り拓殖務省にては同道典獄各分監長を召集し本月二日より北海道獄制に對する諮問會を開かれたりしが右典獄各分監長并に拓殖務省の當事者は本月一日午後五時より東京麹町區富士見町富士見軒に會し小河滋次郎氏を招聘し列國の監獄に對する意向と實況を聞き併せて刑事殖民に對する意見を叩かれたりしと、今其大要を聞くに左の如くなりと云ふ

●北海道獄制問題と監獄學者 (小河滋次郎氏の談話)

小河氏は先列國の實況并に萬國監獄會議の模様を述べ其後に刑事殖民問題に對し熱心其非なる理由を説けり曰く元來刑事殖民なる者は犯罪者たる粹惡の人間を内地より殖民地に移し一方には内地人民の改良を謀り一方には殖民の便宜を計らんとするに在りて有害を變じて有益に充てんとするにあれば其目的甚だ可なるが如きも實際は反對の結果を生ずるのみならず却つて刑の目的に反するより嘗て此の制度を採用し來りし英佛獨逸を始め和蘭伊太利等も五十年前より漸々其の制度を廢止するに至り近年露獨共同してシベリヤ地方に此の制度を施行し歐洲より惡人を排斥し去らんと務めたりしも今日に至りては獨逸も亦其非ある所以を認めたるを以て右制度を實行する

は獨り露佛二國に止れり而して萬國監獄會議を聞く
 毎に此の問題の非難甚しく刑事殖民は殖民地に於け
 る私立會社に利益を與ふるに止り刑の目的は勿論殖
 民の目的をも達する能はずとて終に輿論は刑事殖民
 に對し國會の議決を経ざる不當の保護金を私設會社
 に與ふる者かりとの斷定を與へ其論非常の勢力を有
 せしより終に千八百九十一年佛國のヌーベルカルド
 の刑事殖民を禁止するに至れり是れ蓋し殖民地には
 鑛山業若くは拓殖業に關する私設會社起るに當り囚
 徒を利用せば自然賃銀低廉なるを以て私設會社は之
 を利用せんと欲すべく其結果は私設會社に保護金を
 與ふると同一なりと云にあり然るに先頃巴里に於て
 開會せし監獄會議に於ては佛國政府に便宜を與へし
 を以て自國が奉せんとする刑事殖民論に對しては大
 統領始め熱心力を盡せしかば列國議員も主人公たる
 佛國政府の提出案を無下に排斥するも如何あらんと
 て國際上多少遠慮する所あり殆んど可決せられんと
 の勢ありしも正義は尙能く百難を排し右に對して完
 全なる議決を與へず儘かに刑事殖民にして完全なる
 改良を謀るを得ば之を實施するを適當とす云々と折
 衷的の議決を爲せしも其實際は刑事殖民を非認する

者多數ありき而して監獄制度の上に於て萬國共に改
 良の必要を謀るは囚徒の業務如何に在り我國の如き
 は近來監獄上に一大改革を加へ萬國をして殆んど驚
 歎せしめたるも囚徒業の種類に對し各國に大言する
 能はざる者あり是れ外ならず囚徒をして炭坑に従事
 せしむる事はなり列國廣しと雖も囚徒をして炭山採
 掘に従事せしむるの國他に其例を見ず我國にても先
 に北海道には刑事殖民制を施行せしも其非を自認し
 て之を廢止せしより北海道にては囚徒を炭坑に使役
 することを禁じ目下囚徒を鑛山に使役するは獨り三
 池鑛山あるのみと爲れり此とても漸々は廢止せざる
 べからず云々と又曰く刑事殖民の非なる理由は少
 からざれど其重なる者は

- 第一 刑の目的を達する能はず
- 第二 殖民の事業を奪奪する事
- 第三 炭坑内にて囚徒に事業を與ふる時は監督と
與ふる能はず
- 第四 殖民地をして子々孫々も穉惡なる人民たら
しめんとす
- 第五 良民の移住を妨害する事
- 第六 一部私設會社に議會の協議を経ざる保護と

與ふる事

其他擧げて數ふる能はざる各種の弊害ありとて熱心
 立論する所あり典獄を始め來會者一同も其説に對し
 一の異議を入るゝ者なかりきとなん

特別寄書

左に翻譯せし英國婦人出獄人保護協會の記事は近
 若の米國通信ブラットショウ夫人の報せられし處
 なり、同夫人は余在米の日少からざる同情と斡旋
 を以て余が事業を助けられたる恩友なり、ブ夫人
 その書翰に曰く

妾思ふに貴君は英國婦人出獄人保護會のことに
 つきては未だ御承知なきと推察すれば妾が抜き
 がきの手紙より更に謄寫して御参考に供し度候
 云々

とブ氏が我儕事業の爲に濃厚なる同情を寄せらる
 ることは感謝に堪へざる所なり今譯して以て同好
 の士に頒たん、

留岡幸助誌

女子出獄人保護會

十字架の教はあらゆる眞善の事物に反して閉鎖せる
 人心を開く唯一の鍵なりとす英主及愛蘭土の縣立若
 しくは町立監獄に二週日以上二年以下の拘禁を受け
 たるもの二万五千人にして未決監には五年以上終身
 の刑に處せられし罪人一人を包容せりマデレス夫
 人(英土人)は地方勞働團體なるものを組織し幕で蒸
 氣洗濯を設けて毎日女子に授くるに正直健全を以て
 したり午前九時獄門開きて青天白日自由の身とあり
 し者共の出で來るやマデレス夫人配下の貴婦人は該
 處に至りて彼等出獄者の中望みの者は近隣の一家
 に來りて朝餐致すよう招待をなす此家を「惠の家」
 と呼べり食後單簡なる勸話あり此に止せらんと欲す
 る年少き者には相當の職業を課し而して多くは喜ん
 で足臺、坐蒲團、寢室用上履或は普通の衣服裁縫等
 の針仕事に従へり年老ひたる者は當人の望によりて
 蒸氣洗濯所に遷さる

此監獄門前事業は當初に於ては覺束なき事業にてあ
 りしが成功は甚だ著しきものとなり一年中に朝飯を
 供與せられし婦人三千四百八十五人一日廿五錢の賃
 銀と食事とを得て裁縫に従事せし者千四百八十一人

に及べり蒸溜洗濯所も亦慈善事業をなし貧民は一ダ
 スにつき六ペンスを拂へば足るべく若し其貧民にし
 て病疾あらんには洗濯は無料にて之をなし遣はず該
 洗濯所は一年間に於て五千點の物品を無料に洗濯せ
 り人或は此仕事を以て餘り下賤なりと反對すれども
 彼等出獄婦女にして高賃銀の好職業あらば之に轉ず
 ると勝手にして唯其轉んせんとする職業が罪惡なる
 場合に於ては此處に止るよう勸告したるのみ
 此惠の家に於ては朝夕及正午に禮拜をなす食事中に
 一貴婦人は傍にありて興味あり且つ有益なる書籍を
 讀み聞かす

●犯罪の原因に就て

富山坊主人

近世人類の進歩は犯罪原因の探究上に一大新説を興
 へ即ち犯罪人は其人相に於て將た腦管等の組織に於
 て善良人と異なる所あり故に犯罪を爲す者は稟性惡
 質恰も遺傳痼疾者と一般殆んど容易に醫すべきもの
 にあらずと論斷を下だし此の種の學說追々刑法學者
 の贊同するところとなり遂に刑罰の性質を變じ行刑
 の目的を變改せしめざるべからずと極論するの傾勢
 を示せり是れ人類の性質果て斯の如き稟性なるや否

予等無識の平凡家は得て論難すべきにあらずと雖個
 は社會學者特に獄務専門家に質し大に論究すべき問
 題に屬するを以て聊か卑見を陳して大方諸彦に質義
 する所あらんとす諸彦幸ひに明教を垂れよ
 予等の見を以て評言すれば幾多の犯罪人中或は面相
 骨柄等に於て一種奇形を呈し如何にも生來惡魔を俱
 備せりとの觀なきにあらざれども是は人命犯者等に
 於て偶に見るところにして殆んど稀有と云ふに過ぎ
 ざるなり抑も何れの監獄に就て實驗するも犯罪者即
 ち囚人の面相に愛嬌を俱へ將た骨肉に風采を備ふる
 者の甚だ稀れなるは一般の狀態にして何人も之を訝
 まさるべし然れども人の容姿は喜怒哀樂の境隅、貧
 富、貴賤の程度に因て種々變休するものなれば常に
 優裕渾身の人たりとも一朝獄窓に收禁せられ人界最
 劣の境隅に沈淪したる上は感額魔相人をして殆んど
 原像を忘却せしむるに至らしむるなり若し此の容貌を
 して性來特種の稟質ありとしたらんに誰か惡性を
 らざるものあらん實に人類の性は惡にして善なるも
 のにあらずと定義を下してこそ適當ならむ豈奇訝千
 万ならずや
 蓋し人には生知安行學知利行困勉行の差なきにあ

らざれども其成功の結果を一にし性素と善に歸する
 との格言は萬世に通じて不易の言なり然るに若し果
 て犯罪は一種の惡性に成るものと認定したらんに
 再犯矯正の道大に杜絶せられ加之ならず不幸にも此
 の種の資格に恰當する者天を樂んで惡事を増長する
 に至らん天道豈斯る危險を容るさんや凡そ人の處世
 に對する禮樂刑政其準正理に採らるはあく正理の容
 れざるものを以て人を制せんとするは猶木に縁て魚
 を求むるの愚に勝ること遠しとす思はざるべけん乎
 予等は不學にして人類學の河たるを知らざるなり故
 に犯罪は惡性より成る天賦的行爲なりとの論旨は何
 とか感服するまでの明説を聽かんと欲するに切なる
 ものなり然れども唯上陳の如く千百中より一二の變
 例を擧げ之を以て刑罰主義犯罪の性質等を一變せし
 めんと試論するが如き者に向ては尙反駁の材料多々
 ありとす其は後日徐に論及すこととす先づ諸彦の明
 教を拜聽せん希くは示明する所あれ

●ニウヨーク市監獄

一日庵主人

該監獄はニウヨーク人呼んで「ツーム」(墓の義)と云
 全然刑事被告人を拘禁する爲に設けられたるものな

り、其故に裁判所と接続し兩建築を架するに一橋あ
 り刑事被告人、及既決囚は此橋を渡りて裁判所に往
 くなり、世人この橋を名けて「ブリックチオブサイス」
 と云ふ此を譯せば「悲みの橋」と云ふ義なり
 該未決監はセントル町を横ぎり市廳より五六歩を歩
 みなば石造にして埃及風の一大建築を見ん此れ即ち
 未決監なり、該監獄の正門はワランクリン町にあ
 り、該監入口の右側には警察の法庭あり、
 抑々該監獄の地所たるや米國獨立戰爭以前は絞臺の
 ありし所にして、我國にて此を言はば鈴ヶ森の如き
 刑場なりき、一千七百一年ニウヨークに黒人種の一
 大騒動ありしとき、七人の黒人は此の所にて絞罪に
 處せられたりと云、爾來引續きて黒人種白人種は數
 多處刑されたり、前述せし如く該未決監獄は一千八
 百四十年今を距る五十六年前の建造にして過去數年
 間毎年平均二万五千人を收監せしと云ふ、
 頃日ニウヨーク監獄協會にては市監獄并に地方監獄
 を巡閱するの命を受け、頗ぶる精密に各監獄を巡閱
 せり、其報告に曰く
 ニウヨーク市監獄
 該監獄は刑事被告人を容るる爲に用ひられたる所

なり、分房の總數二百九十八箇あり而各分房は幅六呎長十呎なり、而通常囚人は四百七十五人を拘禁す、巡閱官の考ふる所によれば、かゝる結果は一房に三人を拘禁せざる可らざるの困難を生ぜり、過ぎにし週間に一房に二人を拘禁し、十五若しくは二十の分房は一房に三人を拘禁せり、昨年のは多くは此れ一分房に二人を拘禁せり、而在監者の或者は二十四時間を如此分房に同房せり、分房に椅子なく、「テーブル」なく其故に狭き寢臺を除く外は更に膝を容るゝの寸隙なき有様なり、在監者は狭き寢臺に共に臥し二人一の寢臺に臥すときは互に脊を背きて眠むるが故に一人の前頭は前の者の足部にありなり、若し三人同房に臥す場合はその一人は「ケツトリー」をかむりて床上に眠らざる可らず、在監者の或者は一ヶ月を如此分房に臥すことあり、冬は晝夜如此分房に起臥し、夏は不潔なる臭氣を如此分房に呼吸することなれば争か衛生を完ふすることを得んや、極悪の罪囚にさるもかゝる監獄は過酷と言はざる可らず、況んや時に無辜の刑事被告人を拘禁するに於てをや、刑事被告人を處遇す

るには全然非人類を處遇するが如くなる可らず、法律によれば浮浪の徒及犯罪者を處遇するは全然嚴密ある分房に付せざる可らずと此れ弊害の甚しき悪交を絶たん爲なり、然而巡閱官は左のことを上申せり、新地方監獄及授職學校とを設立し此れに電氣燈を架設すべしと

●ニウヨーク府の輕罪重罪

一千八百八十六年ニウヨーク州にて重罪の宣告を受けしものは三千三百六十人、然而輕罪の宣告を受けしものは二十八万六千七百人なりしと云ふ、有名なる不定刑期信奉論者なるエルマイラ感化監獄の典獄ブロックウエー氏の考案によればかゝる大數の輕罪者は進んで重罪犯者となるものなれば、輕罪囚にも宜敷不定刑期を利用し大に彼等を犯罪初期に改良せざる可らずと、吾人は嘗て魯國首府セントピートルスホルグに開設せられたる万国監獄大會の年報を讀みその内にブロックウエー典獄の名論ありしを閲讀せしことあり、蓋は他にあらず、世に所謂習慣犯者として司獄官のもてあます尋常の手段にて改良し能はざる老頑囚に不定刑期を適用せざる可らざるの理由

てふことにてありき、一は社會を彼等の毒手より保護し二は犯罪者自身を改良するの利益是れなり、詳細のことは他日翻譯して讀者諸君の一覽に供することあるべし、「キニー子」は何れの熱病にも効顯著しきが如く不定刑期の宣告法は犯罪人凡の階級に應用して妙味言はん方なし、我國の同業諸君一度此を實地に適用して見ても如何、保守風に帆をかけて退歩の港に航海するは新日本監獄改良の善策にあらず、宜敷進んで新式に依りて改良の實を挙げざる可らず、曰く條件附裁判、曰く不定刑期の宣告、曰く感化院の設立、曰く何曰く何と其運動一つにして足らずと雖一應の調査を遂げたる上は宜敷此を試験田に下す可し、机上累々たる改正案も甲論乙駁の境涯に彷徨しては到底満足なる効果を收得す可らず、第一理論第二實地此れ社會を改良するの順序なりと信す、

雜 錄

岳洋小河君と薇峰留岡君が海外に遊學せられし日岳洋君は獨逸の深林より薇峯君は亞米利加の曠原

より互に教誨論につき筆戦ありたりと云ふを聞くに頗る面白きものあれば兩君の許可を得て本紙に掲載することしなす、

明治二十九年一月十七日伯林發小河君の書翰に曰く……要するに宗教々誨の愈々必要なるを悟り申候獨り監獄に付て而已之れを謂ふにあらす將來我が國に於ける社會の改造はさうしても宗教の力に頼らずんばあるべからず宗教なくして治獄を語る恰かも石炭を用ひずして流車を行らんとするが如し道義教誨など云へる夢想論は一日も早く消滅せしむること專要に有之否な道義教誨なるものは教育に伴ふ當然の主体に有之將來に於る監獄の教育は一層其範圍を擴めて成るべく道義教誨の分子を多からしめ之と同時に教誨して其純乎たる本性の宗教主義に歸一せしめんこと焦眉の急務に可有之併せて教誨師の位置をば高尙且つ鞏固からしむること必要と確信し候老兄にして頑然尙は我軍門に降ることを肯せずば花々敷一戦を相試み申度ものに御座候

神—宗教 教育 (道義) 德育 (祈禱) 說教—懺悔

我が軍隊の配置法は大畧右の如し
 右は御返事旁々申上度目下多忙餘は後便萬續可申候
 勿々拜復
 同年二月三日附を以て留岡君は左の如く小河君に返
 書を送れり

拜啓一月十七日付の御書正に落手拜誦例の如く數回
 に及びて何より嬉しかりしは老兄の教誨論に候好敵
 手として欣然仕候軍門に降伏云々の語あれども中々
 左様な譯に無之小弟の道義教誨論は愈々進んで愈々
 真境に迫り旭日か瞳々たる觀有之申候孤城落日と御
 誤解なきやう願ひ度候御書中

要するに宗教々誨の愈々必要を悟り申候獨り監獄
 に付て而已之を謂ふにあらす將來我國に於ける社
 會の改造はとらしてても宗教の力に頼らすんばある
 べからず

宗教なくして治獄を語る恰かも石炭を用ひずして
 滾車を行らんとするが如し云々
 誠に御同感に堪へず候は於乎老兄の意と小弟の意と
 は符切を合するが如し老兄よ君と僕の意見が全反對
 と思はるゝは大なる誤なり、宗教を監獄に是認する
 こと最も此を大切に論ずる點は同一なりへ何時ぞや

も御互に大相違の點あれば老兄より失劍幾回にても
 御差向けられ度御相手申上んと存候御一笑被下度候
 ●小河岳洋君の休職狀

二月も最早半ばを過ぎぬ、目出度く御歸朝の機も
 近きにあらん、さるにても御望みの歐洲行は如何
 御決定相成り候哉、兼ても申進候通り先づ獨逸に
 來らん夫より英國に遊ばるゝことに相成り候はゞ
 費用格別多からずして益する所必らず多々なるべ
 く、當地にてはクロー子翁も御待受け居り申候、
 何卒御決行切望する所に御座候

●本項も前項同様小河氏が滯歐中原留岡兩氏へ宛て
 られたる書東の一節なりと云ふ
 拜啓陳ば先頃兩兄宛にて鄙書拜呈致置候處御落手被
 下候義と存候尊書と共に獄事叢書近刊の分もモ一接
 手の頃と待つ身には一日千秋の思ひ有之申候先以兩
 兄筆硯益々御清適奉敬賀候留岡兄御歸朝後の御動靜
 は如何被爲在候哉御詳報渴望致居候兩三日前在米大
 塚兄の細書に接し候處不相換精學の由殊に此頃ハ
 「マザチセツツ」に於ける留岡兄苦業の道場に於て専
 ばら斯業の研究に従事せられ候趣に有之御同慶の至

監獄雜誌に載せし道義誨論の一片及今回雜誌に投
 書せし監獄教誨論参考)所謂君の誨主義論も僕の
 教誨主義論も同一に候宗教を治獄の一大要素とする
 は同一と存候只異なる點は此をドノ點で適用するか
 と云ふとにありと存候小弟は宗教を熱心に監獄に歡
 迎する一人に候然し宗教を全然無因教誨に施すべき
 か若くは此を純然たる道義教誨に代用し宗教は求道
 者若くは從來各自信する所の在監者に而已限る可き
 ものかは目下の疑問に候小弟の意見は屢々世に發表
 せしが如く、總因教誨なるものは純然たる道義教誨
 にし宗教は各自の信んずる所を獎勵し敢て監獄より
 壓制がましく据膳的の宗教々誨を爲さざる方可然と
 信んじ候蓋し宗教のことたる良心問題に屬するもの
 にて俗權を以て一時屈服させて聽聞さするも結局實
 益少なかるべしと云ふに歸着可致候然らば御互の論
 點は宗教を在監者に擴充する範圍の相違にて旨義若
 くは主義の相違に無之候即ち宗教を罪因改良に適用
 するににつき狹義を執るか廣義を取るかの差異而已
 と存候御一考被下度候十數年間自らキリスト教を信
 んじ種々の經驗と見聞を経て把持する説は右申上る
 如く頑として動かざること大岩の如くに候尙此上に

五日前細書を認め東京の原兄の許へ通信いたし置
 候或は獄事叢書の上にて御覽被下候機も可有之と
 存候云々
 二月廿二日
 獨逸伯林府 岳 洋 生
 米國コンコルド監獄
 留岡 老兄
 侍史

りに候小生も此程より研究の都合に由り一時伯林を去り當地に轉學罷在候御聞き及びも可有之當地は來因河畔絶景無比と稱する名區に有之市街の都雅は申すに不及一步外に出づれば野廣く林深し水は千古の流れを湛へ山は萬有の秘を藏す月は清く花妙へに晚鐘響く所古刹登へ杜鵑啼く所孤城幽なり見渡す限りすべて是れ歴史的美術的の活畫にあらざるはなし牢屋學研究の身には少こし贅澤の沙汰かとも思はれ候程に御坐候併し當地轉學の義は全くクロー子翁の勸誘に從ひ候次第に有之獨り獄務研究上諸般の便宜有之候而已からず併せて亦た健康上、少からざる利益あるを得偏へに翁の厚意を感謝致し居り申候

岡山孤兒院年報御送付を蒙むり難有精讀仕候因とより監獄事業とは縁の離れ候事業には候得共「世に捨てられたる者を救ふ」の點に於ては是れも彼れも均しく同一あるものとして見るを得べく從つて之れに對して盡すの道は彼れに於て誠意なるが如く是れに於ても亦た誠意なるべく彼れに於て熱心なるが如く是れに於ても亦た熱心なるを要すべきこと勿論に有之我れも亦た彼れが如くに一家斷食しても此の罪囚を救ふの誠意熱心あらば監獄費九百万圓餘の「アチ

ガヒ」は寧ろ過ぎたりとも決して不足なりとは申されましく斯くても尙ほ改良進歩の効を奏する能はずとは孤兒院に對して御同様に赤面至極の義と謂はざるを得ざる次第と被存候院長石井氏の名は兼て横濱の堀牧師より傳聞致し候こと有之候へども未だ親しく面會致し候機會を得ず何れ其内叩門請教の榮を得候こととは存候へども御序での節宜敷く御致聲奉願候

在米大塚兄へ贈りたる返書中に記して曰く「東洋に覇たる日本帝國、歐米の強國と比肩すべき大帝國、此國にして尙ほ且つ三四百に足らざる頼りなき憐れむべき幼兒を給養し能はずとは如何にも臍甲斐なきことに候はずや」云々と人の美は容貌に非ずして心にあり神を敬し國を愛し人を憐れみ物を惠む心の美なるにあり、國の基は人にあり、人美ならずして何くんぞ能く國の美なるを期する得んや文明と言ひ富強と稱す是れ皆か美の別名なるを知らずや人或は謂ふ歐米諸國は富強文明なりと言ふと雖ども人情に薄く義理を知らず偏へに名利に奔り淫樂を是れ専らとすど或は然らん社會何れの所か裏面の醜なからんや醜を探ぐらば驚くべきもの悲むべきもの固とより多

々數ふるに逸をあらざるべし然れども漫に醜を探ぐるは益を我れに資するの道に非らず若し夫れ苟くも寸長の我れに益するものありとせば宜しく採て以て之を我れの則とすべきのみ歐州諸國到る所貧民救助の法周到せざるはなし獨り政府に於て之れに關與するのみに非らず一私人にして之れが爲めに資を投じ勞を役することの多き亦た豫想の外にあり殊に獨逸の如き比較的敢て國の富めると云ふに非ざれども然かも蠲寡孤獨を給養するの道に於ては社會的若くは個人的に其の用意の用備せることに實に驚くべし若し此事業を起すの必要より資本幾何を要することありとせんか牧師一場の設教喜捨するもの忽ち幾萬の巨額に達す之をしも果して人情薄く義理を知らざるの人種と云ふべきか、喜捨する巨額なりと雖ども敢て其名と額を公衆の前に表掲せらるゝにあらす勿論、賞盃の榮を蒙むらんと欲するもあらざるなり富者は兎も角往々にして其日暮らしの細民すら尙ほ其囊底を叩き或は晩酌を節し或は一食を省き或は酒煙を絶つて之れに喜捨す然かも敢て其名の知らるゝを求むるにあらざるなり之をして果して名利に奔り淫樂を事とする人種を謂ふべきか若し夫れ此民にして三百の孤

兒、將さに飢渴に迫まらんとどの報に接せば果して能く傍觀坐視、それをして神を祈つて食を請ふの必要境遇に陥らしむべきや予は斷じて之を信すること能はざるあり、吾人東洋大帝國の民たるもの宜しく深く此に鑑戒する所なくして可ならんや放言壯語、漫に國の膨大を誇るも詮なきなり同胞を愛するの心は則ち國を愛するの心なり同胞の最も憐れなるものを愛するは則ち國の基礎の最も鞏固ならんこと愛するの心なり孤兒を助けよ罪囚を救へよ救助せらるゝものも多きを憂ふる勿れ救助するものも少きを憂へよ此に多ければ彼れに少く彼れに少ければ國、強し國の文明は此に於てか始て其の真相を見るを得べし兩兄果して以て如何となす云々

原 胤 昭 様
留 岡 幸 助 様
警察監視法案に就て
浪 々 生
小池滋二郎

政府が今回減刑放棄者に對する取締方法に就き種々詳細なる訓令を各地方長官に發し放棄出獄者の取締を嚴にし尙も聖恩に背戾するものを未崩に防止する

の方針を以てせり、然れども犯罪の減少消滅は常に豫防警察の取締のみを以て被恩典者の再犯を防遏せんことば到底完全の効果を奏する能はずして如何に警察に密なりと雖も、法律は厳かりと雖も、彼等を以て犯罪に墮落せしむるの原因を排除するにあらざれば容易に其目的を達する能はざるは勿論なりとす、是れ即ち世の慈善家が出獄人保護事業の急務あるを説論する所以にして語を替へて之を云へば久しく社會と離隔せられ、一般人士の爲め排斥せられ、寄るに家なく、食するに資なき即ち無職不羈の刑餘者をして職業を得せしめざる以上は如何に嚴律酷令ありと雖も何んぞ之を顧慮するを須むんや、政府は曩きに豫戒令を發し游惰浮浪の民を警戒する所ありと雖も其効果の顯然たるものなきのみならず世の物議を惹くの多きより今回新たに警察監視法案なるものを議院に提出せらるるに至れり予輩本法案を見るに全篇皆犯罪豫防警察の目的に出でたりと雖も戒告を受けたるたる者戒告を履行せず又は他の犯罪を爲したるときは法律上の處刑を受くる外各地方長官は三年以下の期限を定め住居地及職業を指定し尙其指定の職業を勉めざる者は三年以下の強制勞役に付す

ることを得(第二條)と規定せるも住居の指定は治安上始らく之を止むを得ずとするも職業の指定及強制勞役に付するも指定の職業種類は如何強制勞役とは果して如何なる勞役を強制するやは命令を以て之を定むと云ふと雖も職業の指定は資金若くは器械を要し且つ指定せられたる職業に經驗なき者に在つては殆んど指定の効果なきのみならず一定の時間強制勞役に付すと云ふが如きは果して如何に之を監督すべきや又如何なる場所に於て何人が之を管理すべきや若し假りに一定の場所を定むものとせば、又警察官を以て之を監視せしむるものとせば所謂即ち第二の監獄(勞役場)とも云ふべきかを形造るものにあらずして何んぞや加之ならず法案第一條第三、第四、第五號の各項の所爲に對しては既に違警罪を以て處罰し尙其上に戒告を用ゐざれば逆之に住居職業の指定或は強制勞役を科せんか刑罰以外に行政刑罰を科すると一般にして只さへ現行の監視すら尙其規定の繁なるが爲め監視規則違犯者の簇出する今日該法案を實施せらるるとせんか其違犯者の多きこと思ひ半ばに過ぐるものあらんとす、況んや今日學者の間に監視規則をして一層寛ならしむるの必要を説く

論者多きに於てをや聊か未だ生産せざる問題に付一言せり

● 減刑せられたる囚徒に對して餘罪の發覺したる場合に於ける刑期の計算 霞堂 主人

本年一月勅令第七號に依り減刑せられたる囚徒に對して餘罪發覺し審理の未餘罪重きを以て更に刑の言渡を爲し前發の刑を通算すとの判決ありたるときは如何に前發の刑を通算すへき乎例へば明治二十五年一月三十一日輕懲役六年に處せられたる囚徒刑執行中本年一月三十一日御大喪に丁り特に減刑被仰出刑期四分の一を減せられ既に其期滿ちたるを以て直に放免せられたる者に對し二月一日餘罪發覺し更に輕懲役七年に處し前發の刑を通算すとの判決ありたるときは現に執行したる五年の刑を通算するか將た前發の刑六年を通算すへき乎換言せば後發の刑を執行するに方り前發の刑を通算するには減刑の利益は更に影響を及ぼさざるや否や之れ則ち一の問題なりとす

此問題に付ては甲乙の二説あり則ち左の如し

甲説 前發の刑に對する減刑恩典は後發の刑執行中に影響せず此説又二派に岐れ各々其理由を異にす
其一 重き後發の刑は減刑令發布の際固より裁判確定したるものにあらずされは前發の刑に對して減刑の恩典ありしと否とに拘らず現に執行したる日數のみを後發の刑に通算すへきは應に當然のことなりとす
其二 減刑令に依り輕懲役六年を減して重禁錮四年六月となりたるものなれば初より重禁錮四年六月に處せられたる者として之れを通算すへし其理由は勅令第七號に於て刑名を變更したるを以て明かなりとす

乙説 後發の刑は假令減刑令發布の際裁判確定せしものにあらずと雖も前發の刑を通算する以上は前發の刑に對して既に有したる恩典の利益を失ふべきものにあらす
右甲乙兩説の是非果して如何

熟々考ふるに余は寧ろ乙説を以て可なりと認む囚徒甲説の不可なる弱點を論し然る後乙説の可なる理由を開陳すへし
第一の説は頗る冷淡にして且不當のものなりとす

何となれば後發の刑は假令減刑發布の當時裁判確定せしものにあらずと雖も數罪中の一に在て而も前發の刑を推算すべきものに係るを以て既に前發の刑執行中有したる恩典の利益を失はしむるを得ず若し一旦與へたる利益を故なく奪ふに於ては暴も亦甚たしと云ふへし故に輕懲役六年に處せられ其判決確定の後恩典に浴し出獄したる者に在ては毫も責むべき過失なく刑事上の責任を免かれたるものなりとす果して然らば輕懲役六年の刑期を經過して出獄したる者と曷を異なる所あるへけんや若し論者の如く現に執行したる日數のみを推算するものとせば折角恩典に浴し確定判決の執行を赦免せられ無事に出獄したるにも拘らず恰も刑執行中逃走したる者の如き惡結果を見るに至るへし

試に問ふ裁判は後發の罪を判決するに方り前後の刑を如何に比較すべき乎論者曰く裁判官は前發の刑則ち最初言渡したる刑と後發の罪に擬する所の刑とを比較して其輕重を知るべきなりと實際裁判所の判決例も亦然り此點に付ては余も亦同感なり故に最も見易き一例を擧て説明せん今本問の事實を少しく變更し後發の刑も亦輕懲役六年に該當するものとして論

するときは刑法第百二條に一罪前に發し己に判決を經て餘罪後に發し若くは等しき者は之を論せずとの明文あるを以て更に後發の罪を論する能はざると明々白々たり果して輕く若くは等しきを以て後發の罪を論すへからずとせば前發の刑則ち輕懲役六年の確定裁判は特赦若くは減刑に依り其執行を免かれたるを以て更に刑を執行するに由かし論者は己に其減輕せられたる刑と比較せず最初言渡したる刑と比較して輕重を定むへしと云ふにも拘はらず後發の刑を執行するに方ては現に執行せし日數のみを推算して恩典の利益を無視せんとす之れ前後矛盾の說にあらずして何をや其減輕せられたる刑と比較して判決すへしとの說を唱ふる者も亦之あるを以て是は後段に之を駁論すへし

第二說は減輕せられたる刑は初より處刑せられたるに同じと云ふに在り故に此說は殆ど價値なし何となれば初めより減輕せられたる刑に處せられたるものと同視するときは本問の如き現に五ヶ年間刑を執行せしにも拘らず減輕せられたる刑則ち四年六ヶ月の日數を後發の刑に推算せざるを得ず豈に此の如き不當の道理あるへけんや尙ほ此說に従へば種々不都合なる結果を來すへし例へば再び重罪を犯したると

合なる結果を來すへし例へば再び重罪を犯したるとさきと雖も先に重罪の確定判決を受けたる者をして特赦減刑の爲め輕罪の刑に處せられたるものとす以上は再犯加重を爲すとを得ず論者は減刑令に於て既に刑名を變更せられたるを以て解釋上然らざるを得ずと云ふと雖も特赦減刑は再犯加重の原因たるを免かれずとは一般學者の唱ふる所なり蓋し特赦減刑は罪を免するにあらず唯其刑の執行を赦免し若くは減するに止ればなり今回の減刑の勅令に於て刑名を變更せし所以は惟ふに減輕したるが爲め其本刑の短期以下に下るとき尙ほ前の刑名を用ゆるとせば輕懲役四年六ヶ月と云ふが如きものを生ずるを以て寧ろ刑期に相當する刑名を付するを以て可なりと認めたるものならん故に附加刑の如きは依然重罪の刑に處せられたるものとして現存す又無期徒刑に處せられたる者は固より監視刑なきを以て減刑の爲め有期徒刑となるも法律に明文なきを以て之に監視を付する能はず然らば則ち減輕せられたる刑は初より處刑せられたるものと見るべしとの論は誤謬に出でたることを證するに足る

其理由を闡陳すべし夫れ特赦とは 天皇の大權を以て有罪の確定裁判を受けたる者に對し其刑の執行を免除するを云ひ其一部を免除するものは之を減刑と稱す然り而して特赦減刑は素と恩典に出でたるものにて或は裁判官の錯誤に由り或は法律の苛酷なるが爲めに不當の刑を受けたる者は懲戒の主意立ち改過歸善の情顯然たる者等に對して之を施し或は刑の執行を赦免し若くは其一部を減免するものなり今回御大喪に丁り減刑令を發布せられたるも亦恩典の旨趣に出づ而して其効果は唯其刑の執行を赦免し若くは減するに止り其罪を消滅せしむるを以て再犯加重の原因とかり又當然復權を得べきものにあらずされば其効力は唯將來に向て生ずるのみにして既往に溯り其効力を有するものにあらず

故に一旦重罪の刑に處せられ其裁判確定したる上は假令特赦若くは減刑に依り赦免せらるるも本犯は重罪の刑に處せられたる痕跡を消滅すると能はず己に重罪の刑に處せられたるものとして之を見る以上は再び重罪を犯したるとき再犯として加重すべきは勿論數罪俱發の場合に於ても後發の罪を斷ずるに方り先に重罪の刑に處せられたるものとして比較し罪の

輕重を定むべきは素より當然のとなりとす果して然らば重き後發の刑を執行するに方り前發の刑を通算するときは亦該判決の主意に従はざるべからず然らば則ち本問の事實は特赦減刑の爲め前發の刑則ち確定判決の刑を赦免せられたるものに付恰も刑の執行を了り放免せられたるものと同視し之を後發の刑に通算せざるを得ず若し然らずとせば特赦減刑の恩典に浴し赦免せられたる者に對し刑執行中逃走したるものと同一の取扱に出で甚だ苛酷ありとの誹を免かれず之れ余が乙説を主張する所以なり

尙ほ他に一の複雑ある問題あり之に對して頻りに反對論を唱ふる者あるを以て左に之を畧論すべし

例へば明治三十年一月十日輕懲役六年に處せられ其判決確定したる後同月三十一日減刑令の發布に當り刑期四分の一を減せられたる者二月一日に至り餘罪發覺し審理の未後發の罪に對し輕懲役七年の刑を科し前發の刑を通算すとの判決ありたるときは重き後發の刑執行に際し前發の刑何日を通算すべき乎此問題に對し反對論者は前發の刑を現に執行せし日數則ち一月十日より三十日迄の日數二十一日を通算すべしと云ふも余は前段に述べたる論法を以て解釋し恩

典の利益を失はしむるとなきを勉む故に輕懲役六年に對し已に減輕せられたる日數は則ち刑の執行を赦免せられたるものに付其一年六ヶ月と現に執行せし日數二十一日を合せ一年六ヶ月と二十一日を後發の刑に通算して(殘る所の刑期五年五ヶ月九日)之を執行せんと欲す

以上は今回發布せられたる減刑令解釋の疑問に屬し而も實際緊要の問題たるを以て余が意見を記述して以て識者に質す

●無期刑の囚徒にして特典を以て減刑せられ有期刑となりたる者に對する監視の有無を論ず

霞堂 主人稿

我刑法を繕閱するに其第三十七條に重罪の刑に處せられたる者は別に宣告を用ひず各本刑の短期三分の一に等しき時間監視に付すとの明文あるも無期刑に處せられたる者には之を適用する能はず何とあれば無期刑には素より本刑の短期あるなし従て其の三分一に等しきものなければなり尤も無期刑の期滿免除を得たる者は別に宣告を用ひず五年間監視に付すと

の規定あれども之れは本問の場合に適用すべきものにあらず然らば則ち他に依るべきの規定なきを以て無期刑に處せられたる者には監視を附加せられざるものとす蓋し監視刑は附加刑の一にして主刑の終りたる後之を執行するものなれば無期刑に對して之を附加せざるは當然のとあるべし

然りと雖も特赦減刑の場合に於て全く監視なしとせば有期の刑に處せられたる者に對して不權衡なき能はず茲に於てや無期刑より減刑せられて有期の刑となりたる者に對する監視の有無を研究するの必要あり實際今回減刑執行に際し此問題を生じたり此場合と雖も余は前記の如く監視刑なきことを確信せり併し之には反對論あり則ち

或る司法官は無期刑を減じて有期の刑を科せられたるものとし刑法第三十七條を適用して監視に付すべしとの意見なり然れども該條は始めより有期の刑に處せられたるものならざるべからず況や特典を以て減刑せられ有期の刑となりたる場合は其性質相異なるを以て司法處分と同一視し有期の刑に處せられたるものと云ふ能はざるに於てをや

然らば則ち始より有期の刑に處せられたる者に對し

不權衡なき能はざる乎曰く不權衡なり然れども之れは畢竟法律の不備に歸するを以て解釋上如何ともする能はず併し刑法草案には無期刑の者特典を以て免せられたるときは若干年監視に付すとありたる由につき立法者に於て之を削除せしは蓋し千慮の一失歟

兎に角現行法に於ては本問の場合法律に明文なきを以て監視に付する能はず頗る允當を欠くを以て之を改正せざるべからず聞く所に依れば改正刑法草案には死刑又は無期の懲役若しくは禁錮に處せられたる者特赦又は特効に因り其執行の免除を得又は減刑に因り有期の懲役若しくは禁錮に減刑せられたるときは當然五ヶ年間監視に付せられたるものと規定せられたりと云ふ果して然らば愈々改正の上は法律の不備を瘥するを得べき歟

●浪華生の誤解

在奈良 洋々 散士

本誌第八卷第二號に於て浪華生あるもの法律上の疑問と題し無期徒流刑を有期徒流刑十五年に減輕したるときは其の短期即ち十二年の三分の一に等しき時間監視に附す可きものあることを詳論せられたり蓋し寺原警保局長より各府縣知事に向て無期徒流刑囚

にして減刑の結果有期徒流刑となる者には監視を附加せざる儀に有之云々との通牒に對し反對の意見を表白し以て江湖の耳目を聳動せり然れども其の議論に至ては實に淺見捕風亦以て確乎の理由を認めず今君が論ずる處の主たる理由を掲ぐれば左の三個に歸着するものゝ如し

第一 無期刑者には監視を附せんとするも性質上不能なるものあるを以て立法者は附加監視を認めず然れども期滿免除を得たるものにして尙五年間監視に附す況んや一朝赦に依て減刑せられたるものに於てをや

第二 無期刑者の減刑して有期刑となりたる者に監視を附加す可からずとせんか無期刑囚の假出獄者に對して尙特別監視をも附加す可からずとの奇怪なる結果を見るに至る

第三 無期刑者減刑の結果出獄するとき附加監視なしとせば有期刑の重罪囚と權衡を得ず何とあれば重き無期刑の減輕者には監視をかくして夫れより輕き有期徒流刑以下の重罪囚には附加監視あるにあらすや

抑も今回勅令第七號に依り無期徒流刑より減刑せらざれば等は重懲罰となり其の結果監視無きに至る果して然らば第四條は空文に屬するにあらすや亦重懲役の範圍を脱して輕懲役に變じたるときは無論第四條に依り重懲役の短期三分の一の監視あるものと解せざる可からず然るに君が論鋒に依れば是等は輕懲役の短期三分の一の監視ありと云ふか若くば重懲役の短期及び輕懲役の短期三分の一の二個の附加監視ありと云ふが如き奇怪なる結果を見るに至る是れ浪華生が議論の正皓を失する所以なり第二の理由は本問題に何等の關係なし無期刑者の減刑したるものに附加監視なしとせば何故無期刑囚の假出獄者に特別監視を附加す可からずとの奇怪なる結果を見るに至るか散士は其の理由を發見せず抑も特別監視は附加刑にあらすして行政上の取締規則なり而して假出獄者は無期囚たるも有期囚たるを問はず刑法附則第四十條に依り特別監視に附すること一點の疑なし然らば第二の理由は本問に何等の關係なしと云ふの外なし第三の理由に至ては立法上の説にして勅令七號及刑法等の解釋にあらす何となれば無期刑者の減輕せられたるものは附加監視なく有期徒流刑以下の重罪囚の減刑せられたるものは監視あり是れ固

れたるものに對して附加監視無しとの意見は獨り蟬保局のみならず司法省に於ても亦此の意見を抱持せり本年二月九日高松地方裁判所檢事正の請訓に對し司法大臣は監視を附す可きものにあらす電報を以て訓令せられたり散士は當時此の訓令を見て誠に至當の解釋と思考し一點の疑を存せざり然るに此に浪華生の反對意見を見んとは散士は爰に浪華生の右三個の理由に對し一々駁撃を試みん第一の理由は無期刑の期滿免除を得たるものに監視あり況んや赦に依て減刑せられたるものに於てをやと是れ大に誤解なり期滿免除を得たるものは立法者は附加監視を認めしを以て判然刑法第三十九條に是が規定を爲せり然れども勅令第七號は無期刑より一等を減じて單に有期徒流刑十五年と爲すとの趣意に非ずして本刑のみを有期徒流刑十五年と爲すとの意味にして附加監視には少しも勅令の影響を及ぼす可きものにあらす何となれば勅令第七號第四條に本令の減輕は附加刑に効を及ぼさずと明に規定しあればなり故に輕懲役六年若くば七年囚は減輕の結果輕罪と變ずるも尙輕懲役の短期三分の一の附加監視あるものなり浪華生の如く減輕したる刑期に本刑附加刑共に變ずるもの

より不權衡なり不權衡あるが故に殊更に權衡を得るが如く強て解するは解釋學の原則に反するものなり況んや本勅令の如きは可成利益に解せざる可からず然るに僅かに權衡を得ざる理由を以て囚人の不利益に解するが如きは識者の探らざる處なり浪華生以て如何と爲す

臺灣監獄に典獄を置くの機

臺灣 浪士

監獄に典獄なきは恰も之れ一家に主宰者なきが如く警部長若くは書記官をして監獄を兼掌せしむるが如きは尙後見者に家務を委するに等しく其整否知るべきなり臺灣監獄は果して内地監獄に於けるが如き主義目的を有せざるか將亦同規ならしむべからざるか否刑罰已に一律なり何ぞ規一ならしめずして可ならんや實に同規ならしむべきなり百般已に同規ならしめざるべからず彼此の間素より輕重あらしむべからざるなり然るに民政局官制は内地地方官官制に於て採る處の典獄なる職制を省削せり之れ其如何なる理由なるか知る能はずと雖ども内地監獄に於て已に典獄なる専務官を要す臺灣監獄豈に獨り典獄を要せざるの理あらんや已に典獄ありと雖ども尙其効果を收

拾するに困む況んや典獄なきに於てをや而して臺灣監獄は果して斯道萬眼の共に認むるが如き至難至苦の事案にあらざるか已に同種監獄たり何ぞ至難至苦にあらざるなきを得んや臺灣總督府たるの監獄事業を攬る須らく其覺悟なかるべからざるなり
 今や條約實施の期將に迫れり監獄の整否を見て國の文野を知る彼れ外國人をして帝國の南關に於ける臺灣監獄を透見せしめば彼等の腦裏果して如何の感かある予輩は我國民が今日に於て往昔の監獄を想起するの感情と敢て或は差異あらざるなきかを疑はざるを得ず殊に外國人處遇に就ては内地當局者の最も至難とする處の者にして臺灣岸の如き學て外國人(本年八月以後殘留の者之數も言語、風俗、習慣を共にせず故に外國人を以て處遇せざるべからず)を以て待たざるを得ざる土地に於ては監獄の主義を貫き改過の偉績を奏せしむるに於て典獄なる專務官を要するの急なる敢て多辨を俟たざるなり臺灣總督府たるもの若しも典獄なる職制を設くるの機を誤らば其害の波及する處豈に尠少なりとせんや實に國家百年の長計を過つものなり
 聞く臺灣總督府は明治三十年度を以て大に行政各部の規模を擴張すと予輩は規模の擴張中必ずや監獄行

政も包含せられつゝあるを信せんと欲するものなり否信せざるべからざるものなり實に然り臺灣監獄已往將來の狀況に照らし考一考せば典獄なる職制を設くるの良機は明治三十年度を措て亦他にあらざるなり嗚呼臺灣監獄將來運命の如何は實に此期を以て卜知すべきあり臺灣總督府たるもの如何ぞ此良機を誤るが如き迂愚をなさんや予輩は臺灣監獄前途の爲め聊か赤心を叩く

雜報

●重罪囚徒費用に關する法律案

本月十六日政府は重罪囚徒費用に關する法律案を衆議院に提出せられたり而して其全文は重罪の刑に處せられたる男囚及舊法懲役七年以上の男囚の拘禁及護送に關する費用は國庫より支辨す云々予輩は苟かに信ず法案は實に監獄費國庫支辨論の變影にして監獄費全部の國庫支辨論從來の行懸り上未だ遽かに實行を期すべくもあらざるより或は監獄建築費國庫補助案なるものを本期議會に提出せらるゝやの風説頗

りなりしも是れ又遂に提出を見るに至らずして止みたるより、時恰も減刑大令の公布に依り全國一萬五千有餘名の罪囚に減少を生じ、加之ならず尙其上に未だ放免の期に到らざるも減刑令の結果、就中重罪以上の者は或は輕罪となり又或は重罪の刑名を有するものと雖も殆んど既に過半其刑期を經過しつゝあるもの多く將來重罪本然の刑期六年以上拘禁を要すべきもの果して幾何かある實に全國を通じて二千名内外に過ぎざるべしと云ふ去れば此重罪囚減少の機會を以て總ての重罪男囚の費用を國庫支辨に屬せしむる最も策の宜しきを得たるものにして本案にして果して實行せらるゝの日は地方税監獄費の上に尠からざる輕減を生ずるものとして予輩は本案の通過實行の速からんことを偏に希望の至に堪へざるなり

●重罪男囚國庫支辨後の監獄

前項の法案にして果して實行せらるゝの曉には重罪以上の男囚は總て之を内地の各集治監に集禁執行せしめられんとの議にして従前より内地集治監に拘禁しつゝある徒流刑以上の囚人は總て之を北海道集治監に押送し其補缺として各府縣獄の重罪男囚を内地集治監は單に輕罪監獄として地方的犯罪(犯罪の

重輕に依て假りに之を區別せば)者を拘禁行刑するに過ぎざれば各府縣監獄費の上に大なる節減を見るや實に明かなる事業にして強ち地方の負擔に耐へずと云ふが如き嘆聲を聞くことなく一面罪囚減少より監房の別異規律の勵行、兩々並び行はれ監獄の改良をして完全に速成せしめ刑罰執行の目的を達することと以て庶幾すべきものあらんか加之からず減刑令發布の結果北海道并内地集治監の罪囚は一時に著しく減少したるより折角集治監所在地に於て今日迄盛大に趣きつゝある三地集治監の炭鑛業の如き現に罪囚減少の爲め尠からざる影響を受けつゝありと云ふ今の時に當つて此計畫ある恂に一舉兩得の施爲と云ふべし

●樺山内相の訓令

減刑令の特典を蒙り放免せられたる出獄者監視上に就き樺山内相には二月十九日各地方官に訓令さるゝ所ありしとは前號の本紙に記せしが其訓令文は左の如し
 先般發布相成たる減刑の勅令に依り出獄の恩典に浴したる者は普通滿期放免者とは大に其情態を異にするものあり故に右等の者に對しては特に其視

察を周密にし苟も此至大の 聖恩に背かざらんことを要す就ては該勅令發布の際放免せられたる者の生業の實況并に行狀等凡て左記の例に依り向後三年間報告せらるべし但出獄後一ヶ月間に於ける生業の實況并に行狀等は左記の例に依り來る三月五日迄に特に報告せらるべし

而して其監視報告例は左の事項ありとす
 一職業 一改後の狀ある者 一改後の見込なき者 一行衛不明者 一死亡 一出獄後の犯罪を爲したる者 一生業に就かざる者

又出獄後犯罪を爲したる者の報告に就ては左の數項あり

一氏名 一罪名 一犯數 一在監中の職業 一放免後の職業 一原刑の罪質及刑期 一放免の際下附したる金額 一出獄後の狀態及犯罪の原因 出獄後顯著なる善行ある者は住所氏名出獄前の罪質犯數刑名刑期出獄後の職業生計の方法善行の狀況を具し其都度報告するものとす

●警察監視法案

政府提出の警察監視法案は専ら犯罪豫防警察の目的に出で無職無産の徒にして諸所を徘徊流浪し爲めに

良民に危害損害を蒙らしめんとするものを防遏し若くば改悟遷善正業に就かしめんとの方針にして或は必要の場合に在つては住居職業の指定を爲し強制勞役を付することを得となれり、成程詐欺浮浪の徒社會に横行跋扈するの今日豫防警察上甚だ必要なるが如しと雖も現行の監視規則さへ常に違犯者の多き今の時に當つて此類難なる監視法を實施せられんとす、予輩本法案實施の曉は第二の監獄を警察の下に定置することとなり却て其効果の見るべきもの尠なるべしと信す

付本法實施に至らば従前の豫戒法は當然廢止せらるべき筈なりと云ふ

●感化學校創立の計畫

前の大審院長三好退藏氏は世の薄命兒の爲め留岡幸助氏を主任として専ら良知良能を培養し力食自活の道を授くるを目的とする感化學校の設立を計畫し弘く有志者の賛成を求めらるると云ふ而して、氏が未丁年犯罪者を調査したる統計左の如し

十五年	男	八、二一六	女	八〇〇	合計	九、〇一六

化改良社會有益の民たらしめんとせり、兩氏の斯二事業は素と其見る所をこそ異にすれ其軌は一として甲乙軒輕なきは勿論、兩者の成功は將來社會を裨益すること其れ幾何をや世の志士仁人たるもの一臂の力を添へすして可なふんや、聊か吹鼓す

●三好退藏氏の學校

政治上の事業は兎角派手やかにして世人の耳目に眩曜すること多く隨つて功名を博するの機會も少からぬと社會的事業に至りては浸潤迂餘、漸を追ひ徹を累ねて其効績を収むべき性質のものなれば名利の念を去りて献身的熱情ある人にあらざればこゝに従ふこと能はず感化學業の如き殊に其太甚しきものならん

されど感化學業の今日に急切なるは言ふまでもなく統計表の示す所に據れば明治十五年より二十七年に至る十三年間に未丁年犯罪者の増加は驚くべき程にて十五年より廿二年に至る八年間は概ね九千人より一万四五千人の間に止りしも二十三年には頗に一万九千六十三人の多數に上り爾來年々増加して二十七年には二万七千六百七十人と爲れりもしも此等の不

十六年	一、二、二二	一、二、三七	一、二、四四九
十七年	一〇、六一四	一、四四七	一、二、〇六一
十八年	一一、六七八	一、八七〇	一、四、五四八
十九年	一一、三三二	一、六八七	一、四、〇一九
二十年	一一、三九一	一、五七四	一、二、九六五
廿一年	一〇、〇四五	一、三九三	一、一、四三八
廿二年	一一、四七〇	一、四三一	一、二、九〇一
廿三年	一七、七四二	二、二二一	一九、九六三
廿四年	二〇、四四六	二、四八六	二二、九三二
廿五年	二二、三〇九	一、九三七	二五、二四六
廿六年	二二、四〇七	三、〇四三	二六、四五〇
廿七年	二四、四四二	三、二二八	二七、六七〇

●感化學業と留岡幸助氏

原胤昭氏は出獄人保護事業に向て滿身の熱誠を注かれつゝあることは社會人士の汎く知悉する所ろ、此原氏と類類の交りありと云ふ留岡幸助氏は社會の惡少年感化學業に就き献身的血涙を瀝さ調査實驗せらるゝこと十年一日の如く遂に遠く海を涉て米國各州斯事業の實況を精究せらるゝ所あり昨年調査を遂け歸朝以來曩さの大審院長三好退藏氏の同情を得て協心戮力、昨今計謀將に熟し世に發表せらるゝに至れり、兩氏の此慈善事業原氏は犯罪人を頽瀾の淵に之を救はんとし、留岡氏は犯罪を其嫩芽に爰除し、感

良少年を感化教育すべき社會的機關備り居りて其邪智未だ長せざるの時若くは悔悟の良心未だ變せざるの前に於て之を開導收養して衣食を得るの道を知らしめ労働自活の道を得せしめなは天賦の良心は年齒と共に成長して一個の良民たるを得るからんに我國には此等の必要に應ずべき機關未だ十分ならざる洵に聖代の一欠點と云ふべき

前の大審院長三好退藏久く此に慨する所あり多年經營せる經驗と學識とを利用して辨護の職に従事し其所得と江湖の義捐とに資て一の感化學校を創立し此等不良の少年を感化教育して力食自活の道を知らしめんとて已に創立趣意書を公にせり從來不良少年の感化に従事するもの高瀬眞卿氏等設立の感化院ありと雖ももとより社會の需用に應じ得べくもあらねば三好氏等の計畫は不良少年を改善教導する上に於て著るしき効績を及ぼすべく殊に氏の人と爲り才機敏活と云はんよりも寧ろ恪勤堅忍を以て優れる人なれば斯る社會的事業を成就するには最も適當ならんに兎に角近來の一美舉と稱すべし

●送還囚被服類返送費に就て
北海道集治監拘禁の徒流刑囚にして今回減刑の結果

十一時頃無事閉會を告げたりと云ふ、當日は會主伊藤藤吉氏演説央に當て出獄者の製出したる造花數種(輸出品なり)及び防水布を以て製したる括枕等を聴衆に示し自己の經驗を報告し併せて世の同情を需むる意味を演述せられたりと、而して當夜諸君の演題は左の如し

第一席 留岡幸助君、犯罪人は改良せざる乎
第二席 小河滋次郎君、歐州出獄人保護事業の現況
第三席 原胤昭君、余が免囚保護の實驗

付小河君の演説筆記は次號に掲載すべきことを約す

●出獄人保護演說會

本月廿七日午後一時過ぎ神田美土代町東京青年會館に於て開かれ司會者三好退藏氏の紹介に依て登壇したるは小河滋次郎氏なり氏は監獄と犯罪の關係と題し論じて曰く監獄は醜風汚俗の集合所なるが故に社會學の研究には最も必要なり監獄の良否は一國文明の程度を卜するに足るとの格言は我國の監獄に適用せざらんことを望む何となれば我國の監獄は犯罪養成の大學校、勿論縮の頭も信心からで適々遷善悔過の徒を出すことあるも要するに賣藥同様の監獄なれ

放免の爲め府縣監獄へ押送の途中囚人へ貸與の被服は勿論各發送集治監へ返送すべきも右運送費は甲乙何れの支拂に立つべき哉との議に付茨城縣より其筋へ照會に對し右は返送地方の監獄費の内より支辨可然、尤も多額の運搬費を要する場合に在ては先方と協議の上之を賣却し代金を送附するも蓋支なき旨内務省警保庶務兩局長より回答を發せられたりと云ふ

●免囚保護大演說會

本月十八日午後七時より横濱本町通横濱會館樓上に於て免囚保護大演說會を開かれたり、會主は嘗て斯業の爲め熱心盡力せられたるある同地の伊藤藤吉氏辯士は留岡幸助君、小河滋次郎君、原胤昭君の諸氏にして島田三郎君も出演の筈なりしが議院開會中の要務に支へられ遂に出席なかりしは會主傍聽人の共に遺憾とせし所なり、當日は何れも皆斯道の實驗に富める名士の演說會にしあれば左しにも廣大ある會場も傍聽人を以て満たされ立錫の餘地を餘さず開演中は至極靜肅謹嚴にして聽者皆身を傾け同情を表するの狀面にて顯はれたり、當日は殊に婦人の傍聽人多く非常の感情を興へたるが如く頗る盛會にて午後

はなり、社會の裡面に伏在する犯罪軍の勢力は頗る猖獗にして軍器兵衛に富み出沒自在にして彼の支那兵の比に非ざれば苟くも之を鎮壓せんと欲せば男女老幼を問はず四海皆兵となつて之に禦さざるべからず、然るに今日までの如く單に政府二三の有司に任して加勢せんやうでは監獄の改良犯罪の撲滅は覺束なしと歎じ一步進んで歐米の如き文化の進むに従て富者は益々富み貧者は益々貧うして犯罪の要素の多きにも拘らず我國に比して再犯者の寡きは何をや第一感化院育兒院の設けあつて岐路に踏入るの途を塞ぎ第二刑の適用及び獄制の整理第三出獄人保護の道全ければなり且つ獨逸杯に於ては帝室を始めとし政府及び市町村が此等の慈善事業に對する保護厚きを以て著しく再犯の數を減せり然れども我國にては此等の機關未だ備はらず云々次に米國總領事マカイウアル氏の英語演說あり最後に清浦奎吾氏登壇して曰く我國に於ては國家事業及び公共事業未だ大に發達せず就中個人的慈善事業の振はざるは誠に慨歎に堪へぬ、現今我國監獄に於ては分房制を施行し始め然らざるも離隔法を施行し居れり然るに放免後直ちに

は分房制の趣旨に反するが故に之は寧ろ個々別々に正しき宿所若くは業務を與ふるに若かず、出獄人保護會社の創立は最も美譽あれども願くは獨逸の如く監獄と連絡を通じて其効績を完うせられたし云々右了つて直ちに閉會を告げたるは三時過ぎなりき當日傍聽人は六百餘人にて外人及び婦人も二三名見受けたり

批評

感化事業の發達

留岡幸助氏著

發行者 哀橋區出雲町一番地

警 醒 社 書 店

定價二十錢

本書は留岡幸助氏の所著に係る清浦司法大臣の閣下三好前大審院長及小河滋次郎兩氏の序文あり岳洋氏の序文に曰く
 要友留岡君は我が獄事社會の先覺なり多年、北

海道集治監に在つて斯の事業に執掌せられ治蹟熾々、令名大に揚がる、一朝、感慨之餘、卒然、職を辭して斯業改良の祖國たる北米合衆國に渡航し殆んど身を繫囚の苦境に投じ備前に幾多の辛酸を嘗め況く各州各種の監獄を訪ひ利弊のある所、理術精究到らざるなく傍ら少年感化、免囚保護、貧民救助等に關する事業の組織方法を探討せられ斯くの如きもの前後凡そ二年餘、終に君が遠征の目的を遂げて好資滿囊萬里恙がなく歸朝せられたるは實に明くれば昨年初夏のことにてありき

著者の獄事上に於ける名望及經歷は先輩岳洋氏の紹介に由て益々明瞭となるに至れり
 同人相繼ふて曰く敬峰氏歸矣斯業改良の前途是れより益々多幸ならんと而して皆、手を額にして其熱血及其の敏腕の先づ何れの點、如何なる方面に向つて灑がれ又勤くかを揣摩待望す。然るに爾來茲に半閱年、未だ君の草廬を出でず我が獄事社會に入りたるを聴かず、曾て保護事業に向て君の氣韻の揚がりたるを見ず、君が得意の健筆を揮はるべしと豫期したる「獄事叢書」すらも久しく杳として其の影を取む蒼生を奈何んの聲、高しと雖ども

君の耳は之れに向て恰かも聳せるが如し。同人或は終に相疑ひ且つ嘆じて曰く時勢非邪將た君、非なる乎、二者、必らず其の一にあらん、君、すでに斯業の人に非らざるかと然れども是れ未だ君を知れるの言に非らず此の群疑囂々の間に處して悠に能く君の心事を諒し益々深く望みを屬せしもの果して幾何かある

著者が躬行實賤の熱誠家たることは其の人爲を知るもの確信する所なりしと雖ども然かも君に待つものの急なる一日三秋も曾ならず其の半歳の沉默は終に同人をして群疑囂々の渦中に捲き込まざるゝに至らしめたるぞ是非もなし、

果然、君の血は、漉がれたり、君の敏腕をた將さには是れより大に動かんとす近著、「感化事業の發達」と題するもの則ち以て之を證す

果して然らば本書は著書が自今斯業に向て大に其の熱血を流ぎ敏腕を揮はんと誓ふの左券とも見るべく同人が一層の重きを本書に置くこと亦た知るべきなり

感化事業の監獄事業に對するの關係は猶ほ衛生法の醫術に於けるが如きが、平素、健体に處する攝

養保全の道を講せずして單に對床治病の術を求むるに汲々たるは抑も是れ備醫の事のみ。未を治めんと欲する者は先づ、其の本を究はむ、感化事業は本にして監獄事業は其の末なり、斯業の先覺たり國手たるもの豈に徒らに其の末に汲々たることを敢てせんや、君の先づ着眼する所此にあらざして彼れにありしは眞に斯業の先覺たるに耻ぢずと謂ふべし、滔々たる天下、比々皆鄙諺に所謂「賊を見て繩を結ぶ」の類にあらざるはなきの今日に方り先覺、君の如き名士の卒先、以て此に着眼する所ありしは斯業の爲め慶幸、何ものか之れに加へん、我が獄事社會が君に要望期待しつゝありし所の好土産も亦た此れに外ならざるべく其の厚賜を感謝するの日、將さに近きにあらんとす云々予輩亦た實に感を岳洋氏と同ふす、氏にして果して身を感化事業に投せらるゝあらは我が國斯業の前途必らず成績の見るべきものあるを信す監獄改良の目的も勢力ある著者の外援に由て始めて之を達するを得べし

本書、別て八章となし冒頭に總論の一節を置き感化事業の精神及其の方法を詳説す第一章乃至第六章に

於て本書の骨子たる往古より今日に至るまでの歐米各國及我が國に於ける感化事業の發生、沿革及現況を細述し第七章に至て感化院と監獄の關係を明かにし第八章を以て感化院建設に關する方案に就て著者の抱負を切論せり、引證該博にして行文亦た流暢なり殊に其の第二章に於ける英國感化院の發達と題する一篇の如きは最も著者の苦心焦慮のある所を窺ふに足り吾人を叱咤鞭撻するの概あるを見る又著者が本書に擲筆すの辭に曰く

吾人は筆を擲くに方り更に語を高調して當局者に訴へざるべからず、國家大計の上より、又國体の點より此惡少年を救護せずして可なる乎、若し夫れ政府にして茲に模範的感化院を起すに於ては民間の志士先を競ふて其例に倣ふべく民設感化院の如きは則ち期せずして各所に見るを得べし、官設感化院を起すは其政府者の任よりするも目下の要求よりするも刻下の大急務たるは更に疑ひを容れざる所にして吾人の願ふ所亦日々唯々此一點に在る而已矣

と予輩亦た實に同情を著者に表せざるを得ず大聲、果して能く俚耳に入るを得るや否や、斯道の人たる

人が唱ふるが如く法令の改正、分房制の實施、監獄費國庫支辨等區々の問題にあらずして他日の犯罪の嫩芽とも云ふべき社會の惡少年を感化改良するにありとの識見益々鞏固となり昨年四月豐富なる研究材料を齎らし歸朝せられたる以來新聞雜誌に、演説に感化事業の發達急務を世人に向て吹鼓せらるゝありと雖も不幸未だ著しく社會の聲目を發動するに至らざるは平素予輩の遺憾とする所なり今や熱血鐵腸は凝て本書の著となれり、本書の素と二百頁に滿たざる小冊子にして君が十年一日の如く今日に至る迄精研せられたる萬能を悉されたるにあらざるは勿論なりと雖も叙次の排列宜しきを得就中泰西各國感化事業の發達歴史(第一章乃至第三章)は各國の歴史を涉獵比較し利弊のある所を痛論し、惡少年の發達(第四章は惡少年となるの原因要素を臚列せられ、感化院と監獄との關係(第七章)を論するの一章は言々句々皆其肯綮に丁り世の監獄改良論者をして反省せしむるに足るものあり、而して卷末感化院建設に關する方案(第八章)として君が社會の惡少年を感化矯正する場所及方法に就き現行制度は泰西に比し遜色あるを痛論し且實際上の統計を示されたるが如きは實

者、必ず一本を其の坐右に備へて大に研究する所あるを要す庶幾くは以て洋岳氏の所謂斯道の備蓄たる譏を免かるゝを得んか

●感化事業の發達てふ新刊に就て

浪々生

本書の著者を誰と爲す曰く留岡幸助君、君は素と基督教宣教師として、殊に監獄改良の本鐸者として、夙に斯業に向て献身的熱誠を注ぎ曩に北海道集治監に教誨師の職を奉ずること數年親しく犯罪の依て生ずる原因を深究せられ飄然として曉る所あり、犯罪の豫防犯罪の救治は社會の惡少年を感化矯正するにあることを悟了せられ、爾來斯事業の發達に向て全職を傾注せられつゝあるは既に世人の知悉する所にして今更に予輩の秃筆を以て紹介するを須たざる所あり、然して君は尙斯事業を一層精密に研究し確的基礎を畫作せられんと目的を以て一朝前職を辭し遠く海を渡つて斯業の泰斗とも云ふべき北米に到り研學正に二年、此久しきが間各州の監獄を歴訪し兼て出獄人保護惡少年感化改良等に關する理術を精研せられたる結果として監獄改善の提議は近時世

に有力の議論として爲政家の宜しく猛省を要すべき點なりとす、要するに本書の骨髄は君が其自序に於て物せられたるが如く左の數言に歸するものと見て可ならんか

前略苟も犯罪を豫防して國家の健全を保たんと欲すれば其由て起る所の本源に遡はり犯罪人を發生する根據より之を救治せざるべからず、抑も根據とは何ぞや惡少年是れかり歐米各國に於て犯罪人を減少せん爲めに各種の改良を爲すものは犯罪を豫防せんが爲めに感化事業力を致さざるもの殆んぞ稀なり云々

以上予輩が本書に對する評言となす妄評多謝々々

寄 書

●本誌寄書家諸君に謹告す

監獄の職務たるや決して繁劇ならずと云ふに非らず、檢束、作業、會計始め衛生、教誨、教育の事務又決して其間に寸暇あるを許さず、故を以て監獄の當局者は宵衣旰食、日に向は足らざるが社會の共に認むる所なり寄書家諸君は平素此繁劇、多忙の職務に精進せらるゝの傍ら暇を忘れず暇を利用し金玉の文章を寄せらるゝこと机上

常に堆を爲せるあるは學會記者の平素諸君に深謝する所なり、而して以上の寄稿案より何れに甲乙なしと雖も本誌に之れを掲載するは吝ならずと雖も本誌は紙數に限りあり、玉稿到君に先後のあるあり勢ひ本誌に網羅するの餘地を存せざるあるは記者の當りに遺憾とする所なりと雖も是れ皆記者の私に出づるにあらざれば幸に之れを海容せられ續々寄稿あらんことを、而して大體以下は可成之を網羅掲載するの方針を採り六號文字を以て登載せんことを期せり諸君豫め其意を淳せられんことを望む
 學會記者謹言

●北海道集治監の存廢果して如何
 在演 愛國 浪士

英照皇太后 陛下の崩御は辱くも役囚の服役赦免となり之に引續き 減刑大令の喚發となり社會の禮面に生息する罪囚に施されたる惠澤は其れ幾何ぞや予輩其筋の統計なりと云ふを聞く今回大令の結果に依り即時赦免せられたる者内地に於て一万三千有餘名、北海道に於て刑罰執行中の者にして二千五百餘名合計一万五千五百有餘名の多きに達し全國總囚に對する三割弱に相當す、而して此放免罪囚に要する全國監獄費の上に一ヶ年六十餘万圓の削減を生ずるの結果を見るに至るべしと云ふ此六十餘万圓の監獄費の減少又決して尠なしとせず尙一層之を演譯すれば此六十万圓の經費は悉に國庫及び地方費に於て消費

的費用の減少したるより他の有益なる事業費に向て膨張の結果を與ふるものなることは將に争ふ可らざる事實にして吾人臣民の幸福夫れ幾何ぞや予輩案するに元來監獄の費用は國家が刑罰權行使に關する必要的費用にして國民たるものし其負擔を免るべからざるは素より當然なりと雖も罪囚の多寡は忽ち監獄費の上に直接増減を生ずること將に明かなる事實にして即ち犯罪の減少は監獄費の消長に關するや亦大ありと云ふべし加之ならず刑罰執行方法の完否、執行場所の如何は監獄費の上に増減を見るや又争ふべからざる事實なりとす故に甚だしく行政上に關係を及さざる限りは政府宜しく是等の點に向て意を用ゐざるべからざるなり現に彼の北海道に長期の重罪囚を發遣し行刑する刑法上の規定は其原因素と政略上に出でたるものに相違なしと雖も爾來社會事物の進歩、政府諸機關の完備は昔日の必要制度も今日は殆んど其要を見ざるもの尠なしとせず是れ即ち法律規則の改廢ある所以にして惡制度を因守するが如きは善良なる政府の爲さざる所なりとす予輩を以て之を見れば現行刑法制定の當時長期の重罪囚を嶋地に發遣すべきこと政畧上善良の制度に相違なかりしと云

よと雖も一擧總書の増加又は他の事情は蓋し此長期の重罪囚を北海道にのみ發遣する能はずして内地に二三の集治監を置き此種の囚人を集禁することゝなりしも最初其筋に於て憂ひたる如き所謂政畧上の必要は殆んど其痕跡にも留めず現に今日迄内地に於て之を執行し來りつゝ有にあらすや依是觀之も從來北海道に發遣したる重罪囚行刑の地は強ち島地に限るの必要なきや將に明かなる事實にして他に特別の理由なき上は強て此被發遣者を北海道に置くの必要は殆んど之れなきが如し、否必要なのみならず反て其正反對に北海道の拓殖を妨げ且つ行刑費に於て内地より多額を要するものあるにあらすや、尙之を換言すれば以上の妨礙は姑らく之を忍ぶとするも發遣制度の不可なることは古今泰西歴史の證明する所にして被發遣者其者に對する法律の効果よりするも甚だ好果を奏するもの尠なきにあらざるのみならず却て其害の之より大なるもの存する事例にして予輩は平素此發遣制度を全廢せられんことを説く亦此理由に外ならざるなり、猶之を證言すれば罪囚を北海道に發遣執行すると内地に於て執行すると其之に要する費用の上に多額の差異ありと予輩兼て其筋の調査

に關くに北海道にある罪囚一人の費用は年額九十圓内外を要するにも拘はらず内地の拘禁囚は年額六七十圓の間でありと是等は全く土地の狀況に依り物價に高低ある所以の原因に外ならずして假りに此統計にして大過おしとせんか罪囚一人に付平均二三十圓の増費を要し此増費を要する効果は絶て之を收むる能はずとせんか弊失の伴ふことなしとするも發遣制度の結果は偶々以て多額の監獄費を要すと云ふの議論に歸着せざるを得ざるなり最も本問題に就ては其筋に於ても調査考覈せらるゝ所あり漸次制度改正の舉に出でらるゝは予輩の信する所なりと雖も今回減刑大令の發布には滿期放免者の多數ありしを好機とし北海道集治監全廢の舉に出でられざりしを深く遺憾とせり又勅令第七號第五條の減刑者は其刑名に拘はらず尙現在の監獄に拘禁すと定められたるは北海道等よりの還送費用を節省する等の煩と避くるの旨意に出たるべしと雖も刑法上より嚴格に解釋すれば有期徒流刑以上囚の減刑の結果其以下に該當するときは當然内地の監獄へ送還すべきものにして若之を内地に送還すとせんか北海道にある一集治監四分監の罪囚は殆んど將に過半數を減少せしや明かなり此

罪囚の減少を機とし従前の發遣制度を全廢するの難事たらざるは勿論實に易々たりしのみ予輩は深く之を遺憾とせり、其他行政區畫よりするも内地に於ける行刑監督官廳は總て之を内務省所管に屬せしむるに拘はらず内地に於て犯罪し只其執行地を異にするのみの故を以て北海道集治監を内務省より分離して新置の拓殖務省に屬せしむるが如きは事体の宜しきを得ざるの感あるに於てをや聊か卑見を開陳するのと有り

●百聞は一見に如かず

吉田徳太郎

學者曰く監獄事業は地方的事業にあらざる國家的事業に屬す爾かも國家競争の事業ありと嗚呼夫れ學者の主張するが如く果して國家競争の事業の性質を有するものならしめば何故に監獄參觀の美學を斷行せざる乎監獄經濟如何に缺乏を感ずると雖も監獄改良上彼此の智識を交換し相互の實施方法を研究し所謂長短取捨の必要ありとせば時々監獄官吏を派出し他管に屬する監獄を參觀せしめ彼の長を取り我の短を補ふの英斷に出でざるべからず然らずんば何れの秋か監獄改良の實を奏する事を得べき哉實に監獄事業

の如き國家競争の事業の性質を帯ぶるものは彼の徒に獨尊の主義を固持し傲然として他を顧みざるが如きは監獄改良の策として其當を得たるものにあらず而して余輩斯く監獄參觀の必要を叫ぶと雖も濫に監獄吏員の多數を派出し則ち猫も杓子も他管の監獄を參觀せしめよと云ふにあらざる監獄吏員中粹の粹士を抜き其任に當らしむるが如きは素より當然の事に於て敢て多辯の要勿るべし何となれば監獄參觀をして花見遊山と一般毫も其實益を得ずして終るの結果を見るに至ればなり嗚呼百聞は一見に如かざるものあらん歎宜しく監獄參觀の美學を斷行し進取的處作に出づべきは監獄改良上必須の事柄に屬するものとし敢て茲に一言する事有り

●謹んで古新山君の減食懲罰に

關する寄書を読む 高知 野本夜耕

古新山君足下足下の斯道に熱心なる侃々として斬新奇抜の議論を施し煽々として論難攻撃を加ふ足下の獄海に忠實熱心なる國家の爲め實に敬服に禁へざるなり而して足下は前號第八卷第一號に於て論題の寄書をせられ以て意志を表白せられたるも吾輩は君

の意旨を推測して論理的に演繹すれば實に左の如し

一 痛苦を加ふべきものは懲罰なり

二 減食は懲罰なり

三 故に減食に處したるものは役業に服従せしめ充分に痛苦を與へざるべからず

又君の文辭の概要を捕捉すれば實に左の如し

懲罰として單に減食するのみにては効力薄弱なり加之役業を中止するの明文なし故に懲罰者に役業をも課せよと言ふにあり

是に因て之を見れば君は絶体的に減食執行論者たることは瞭かなり吾輩は絶体的に反對の意見を有するものなり乞ふ聊か其理由を述べん

抑 懲罰を施す所以は社會の安寧秩序を壊亂したる惡奸をして紀律的境遇に馴致せしむる術として寸毫も忽諸に付すべからず況や違令犯行の者に於てをや然しながら減食は致死の源因たることは統計の證する處にして明かなる事實なりとす故に吾輩は監獄則改正に望んで本條を削除し以て他に制裁の法を加へられんことを希望するものなり君は言ふ役業を中止する明文なしと然り小河氏監獄法講義百九十八頁にも論議せられたるを以て明かなりとす君の論據と

する處實に茲にあり突然りと雖も監獄則第二十八條に作業に服する者は五合乃至六合もあり此の精神を玩味したらんには如何に減食の結果とは言へ食糧を二合乃至三合に減じ尙ほ役業に服せしむるは難中の難事たるのみならず酷の又酷なるものにして寧ろ彼れに死を宣告するものと言はざるを得ず吾人々類は感情の動物あり夜色沈々四隣人靜かなる此靜坐沈黙せば果して如何百感交々胸裡に浮遊し既往の歴史を回想し未來の事物を想像するは吾人々類習慣の常なり今懲罰者を處罰房に蟄し徒手空坐沈思せしむるも非行を悔悟せしむるの餘地にして唯一の好手段なりとす君は又左の如く言へり

食糧を減じたるのみにして役業を免するが如きは左迄痛苦を感せざるべし

試みに問はん春米工或は耕耘等の強役に服するものにして食料を二合乃至三合に減じ尙ほ役業に従事する事を得べきや否や假りに強制をするものとせんか氣息喘々踵々又踏々として工場に斃死せんこと瞭々乎たり嗚呼慘憺たる封建制度の牢獄を再演せんとする者は誰ぞ豐太問の故城千瓢の旌旗を押し立て旗幟堂々侃々諤々として論議せらるると雖も恨らむらく

今日は立憲制度の監獄なれば君が議論に賛成を爲さんと欲するも理に於て得ざるなり君は又左の如く言へり

吾人は多年監獄に従事し懲罰に處せられしこと十犯乃至二十犯杯と言ふ四人に付き親しく身体を審査するに普通四人と異なることなし大害を來たすとは認めざるなり

吾輩も亦多年監獄に従事し懲罰に處せられしこと十犯乃至二十犯杯と言ふ四人に就き親しく身体を審査するに普通四人と異なることあり大害を來すことを認むるものなり彼の減食執行前の体量と執行終(即日)の体量に徴しても隙かなり古新山君足下夜耕も斯道に熱衷の餘り議論詳議に渉るあらば幸ひに滿帆の胸襟を開き聞忍あらんことを

●擬國會

孤 立 生

孤立偶々華會の國に遊ふ時恰も其國會の開會中に際會せるを以て某議員の紹介に依り會議を傍聽するの榮を得たり其議事は我監獄事業の消長に關する監獄費國庫支辨案にてありき而して議事の大勢は可決を促進し遂に滿場一致を以て下院を通過せり嗚呼時歎運歎此日此時を以て監獄費の國庫支辨に復するも

の孤立今有力議員某々二三の演說大要を筆記せしものあり是を記して以て社會は如何に監獄改良の必要を感じつゝあるかを知るの便に供すべし

五十一番曰く
本員は監獄費國庫支辨は以て今日社會の輿論である云ふ事を斷言するに憚らぬのである而して其理由たる監獄は國家の犯罪人を矯治する場所である夫れであるから濫に澤山の資本を卸して此場所の隆盛繁榮は素より吾儕の冀ふ處ではござりませんが若しも一朝此場所則ち監獄の改良を等閑に附し置する時は益々犯罪人の増加を來たし此場所の隆盛繁榮を致す事は自然の勢である故に監獄には澤山の資本を卸して監獄の内部を改良し犯罪人の減少を圖らねばならん其所で改良の方法に就きましては主治者があるのであるから改良全般の事は須く主治者に一任して彼是と容喙するの必要もなからうと思ふ夫れ如斯監獄の内部を改良し犯罪人の減少を圖り置するには澤山の資本を要し置する事は當然の事である恰ど何世でござり置したか那翁が天下を掌握するには權力を以てせなければとて其目的を達する事は出來ないと言つて國家經

費の過半は警察事業に卸し警察權の權力を強大にし遂に其怪力に依りまして天下を掌握致し置した事は已に各員の御承知の事である亦確か其時でござり置したらう特に警察省を設けて専任警察大臣を置かれたのである其所で監獄を改良し犯罪人を減少させますには非常の手段に出でなければ其目的を遂げる事は出來ない那翁が天下を得たる如くせなければ監獄を充分に改良し犯罪人を減少させる事は六かしいのである故に吾儕が犯罪人を減少せしむるには非常の手段に出でなければならんと云ふのは則ち澤山の資本を監獄に卸すと申すのであつて吾儕は國庫剩餘金の幾分を監獄改良の費用に充てると云ふ意見もござり置するが先づ第一に地方支辨を廢して擧げて其費用を國庫に移し置するのには正に理の當然である本員は監獄を改良し犯罪人を減少せしむる事は四千萬同胞の希望である云ふ事を斷言して憚らぬので有から何卒本案は全院一致を以て可決せしめられん事を希望するのである

に就て滔々として雄辯を振はれ置したるが本員も監獄費の地方支辨を廢し國庫支辨に移すと云ふ事に就ては徹頭徹尾五十一番に賛成を表するものである今哉我〇〇の監獄の役人は犯罪軍と大戦争を爲しつゝあるのである若し監獄の役人の力足らずして敗北する時は犯罪軍は益々猖獗を逞ふし遂に國家を混滅せしむるに至るやも推し計れぬのである故に我社會の人民は奮つて監獄の役人を援助し間接に犯罪人を亡滅せしむる事に勉めなければならん併し應援すると申し置しても社會人民が殘らず手を下ださなくても宜しいのである只だ監獄の役人に犯罪軍に打勝の便宜を與ふさへすれば則ち國民の義務は濟むのである其所で如何なる便宜を與へれば濟むかと云ふに監獄改良てう精銳なる武器を具備せしむるだけの費用を給與するのである故に澤山の費用を給與致し置すれば監獄の役人は監房を改築し或は衛生を周到にし教誨を擴張し監獄の作業を整理する等充分に監獄の内部を改良し遂に全く犯罪軍に打勝事を得ますけれども不幸にして費用の不足致し置する時は到底監獄の内部を改

良する事が出来せんから犯罪軍に打負け犯罪軍は益々勢力を振ひ終には社會に大なる危害を興ふるに至りますれば澤山の費用を監獄に卸し内部を根本的に改良し犯罪軍に打勝たしむるの策を講せしむるのには則ち國民の大義務に屬すやうに致しまするには監獄費の地方支辨を廢し國庫支辨に移すより外他に道がないのでござりまするから本員は兩手を擧げて五十一番に賛成を表すと同時に滿場一致の可決を希望するである

八十一番曰く

我〇〇帝國は戰勝後非常の膨大を致し咄嗟に帝國の威武を海外に轟かしめたる事は已に各員の御熱知ある通りである然に我帝國の聲威を傷けんとしつゝ常には其間隙を窺ひつゝあるものは則ち犯罪であるさうして此犯罪軍を打倒さうとして寢食を忘れつゝあるは監獄である處が此監獄と云ふ場所には常に經費が薄いために充分に内部の改良が出来ない改良が充分に出来せんときは到底犯罪を打倒す事の出来ない面已ならず犯罪を減少せしむる事さるゝ六かしいのである夫れであるから本員は永く我帝國の聲譽を耀かしめん事を欲すると同時に監

獄を充分に改良し犯罪を全滅せしめん事の必要より本議員に於ては速に本案を可決せられん事を望むのであるさうして監獄費を國庫の支辨に移すと云ふ理由に就て尙ほ添て申述べたきは外ではござりません素と監獄事業と云ふものは諸君も御承知の通り國家的事業である然に此國家の事業をして地方費を以て支辨せしめられつゝあるは寔に理屈の分らぬ話してあつて我國の監獄事業が遅々として不振なるは眞に所以ある次第である故に諸君に於ても我日本の監獄をして歐米諸國に愧ぢざるの監獄とするには先づ地方支辨を廢し國庫に移すの急務中の急務に屬する事を諒せられ滿場一致の可決あらん事を切望致しませる

●洋々散士の駁論に答ふ

霞堂 主人

論客洋々散士は前號の誌上に於て余が嘗て本誌に掲げたる勅令第三百六十二號の解釋に對し非難攻撃を加へ續々數千言を費したり余輩之を通讀するに殆ど價值なき駁論たるを以て一笑に付して可なりと雖も苟も實際問題に屬するを以て茲に筆を執り彼れの謬

論を正さんと欲す

借て散士の駁論は冗長に渉るも要するに主人は新令に於て一ヶ年間は其定員を動かさらしめんとを希圖したるにも拘はらず在監人増加の場合に於て絶對的に看守を増員するを得すと云ふにあらざ故に第三條に所謂特別の事情に依り必要な場合に於て云々とある條項を適用して看守を増置するを得と云ふも主人の議論は前後矛盾するの甚だしきものにて主人の如く第三條を比附援引するは到底能はざる事なり依て散士は第一條の精神に依り立法者の意思を計り比附援引して解釋を施すものなりと云ふに過ぎず何ぞ其論旨の曖昧なるや是れ余が價值なき駁論ありと云ふ所以なり以下之に反駁を加へ以て散士に答ふる所あらんとす

第一 散士は冒頭に於て看守の定員を設置程度と誤認し尙第一條の文中毎年々々年度より起算し既往三年間の拘禁男子平均數に依り之を定むとの規程を輕々に看過し其一ヶ年間に於ける定員の原則たるを覺知し得ざるより遂に誤謬に陥りたり

第二 現行の勅令には第一條の外囚徒増加の場合に於ける文明あるも改正勅令には囚徒増加の場合を

明記せず唯減少の場合を規定せり蓋し現行の勅令に依れば拘禁男子に百人の差を生じたる時に於て看守の増減を行ひ其時々の之が定員たりと雖も改正の勅令に於ては一ヶ年間の定員を定むるの目的なるを以て之を減員する場合には則ち拘禁男子の現在數第一條の平均數に比し百人以上の減少を生じたる時は百人に付看守五人の割合を以て其年度内に於て臨時看守を減員するを得と記したり畢竟散士は此點に注意せざりしより誤謬に陥りたり

第三 改正勅令には特に看守を増置する場合を第三條に規定し而も第一條定員の外更に五十人以下の看守を増置するを得と記したり其第一條の定員とは則ち三ヶ年間の平均數に依て算出せし普通一ヶ年間の定員を指示したると明かなり故に本條は則ち特別の増置なりと知るべし散士は之を解するに能はざるか

第四 既に第一條の規定は三ヶ年間拘禁男子の平均數を基礎とし一ヶ年間看守の定員を定むるの目的に出たるものと解釋する以上は散士の所謂文理上の解釋に依り其後囚徒が如何に増殖するも看守を

増員するの途なき乎否決して然らず此場合には余が最初より云ふ如く第三條に所謂特別の事情に依り必要ある場合に於て云々との條項を適用して必要の看守を増置するを得るなり散士は特別の場合を列記し狹隘に之を解釋し囚徒増加の如きは通常のとにて特別の事情にあらざと極端の議論を唱ふと雖も行政上の規則は此の如く究屈に解釋すべしものにあらず蓋し立法者に於ては三ヶ年間の平均數に依れば拘禁男子に甚だしき差異なかるべしと思惟せしものならんされば三十人や四十人の増加は暫く措き其著しく増加して檢束上差支を來す場合に在ては前記の如く則ち特別の事情に依り必要の場合に於て云々の條項を適用して必要の看守を増置するは素より支障なし但特別の事情に依り必要なるや否やは事實問題に屬す是れ解釋上當然のとあるに散士は何を苦て之を適用する能はず極論するか

其他反駁を加へ若くは説明するの必要なしと雖も序に附記を要するものあり仄かに聞く所に依れば該勅令の原案には囚徒増加の場合を規定しありたるも法制局に於て審議の際其増加の場合には第三條に所謂特

別の事情中に包含するを以て別に之を定むるの必要なしと決定し減少の場合のみ規定したりと云ふ以上列記する如く法文の解釋よりするも立法の沿革より論するも散士の駁論は誤謬に出たるを明々白々たり而も尙余が説に服従する能はざる歟

質疑 答の欄は本號緊要の記事輻輳し到底紙數の之を許さざるあるを以て本號に之が掲載を見合せたり讀者諒せよ

通信

●厚意を默止せしを謝す

一月三十一日特恩減刑令の發布あり、即日全國監獄に於て執行せられたる實況に就き各府縣より續々通信を辱ふし本誌第二號の紙上に無漏掲載すべし等なりしも緊切の記事多かりし爲め遂に登載の餘白を得ず遺憾一方ならず、去れば述本紙に轉載せんこと少しく十日の菊たるの感なきにあらざりより今回は遺憾ながら相見合はするの止むを得

わのに際會せり、此段厚く御投稿の各位に謹謝す 記者 白す

●監獄巡回記事

在奈良 洋々 散士

監獄を巡回するに其の人の資格の異なるに從て自ら其の視察の點を異にせざる可からず而して其の巡回者の資格とは監獄則第四條第五條に規定し有るが如き警視總監北海道廳長官府縣知事裁判官檢察官若くは府縣會議員此等は皆其の資格の異なるものなるを以て從て視察の點を異にするものなり其の詳細なることは爰に之を畧す而して散士は尙此の外に監獄を巡回視察する人の資格に左の三個の種類あることを知る

第一 巡閱官として監獄を巡回すること

第二 新聞記者若くば一個人として監獄を巡回すること

第三 司獄官吏か府縣知事の命を受けて他府縣監獄を巡回する事

右第一の巡閱官として各監獄を巡回するには如何なる方針に依て巡回するか散士以爲らく此等は内務大臣の命令に依て巡回するものなるを以て戒護其の他

事務取扱に於て改良を要す可きこと若くば惡しきことと意料したる點に至ては詳細に之を取調べ主務大臣に復命し主務大臣は若々改良の實を擧ぐ可きものなり第二新聞記者若くば一個人として監獄を巡回したるときは見聞の實況即ち取扱の可なるものと不可なるものと兩ながら之を社會に報道し監獄をして一顧を煩はしむる可なり然れども第三の司獄吏員が府縣知事の命を受けて他府縣監獄を巡回するときは事務整理上其の他戒護の點に於て不可なりと意料したる事は之を視察探究するに及ばず只其の可なりと意料したる點は充分之を探究し以て自己の監獄の參考に供す可きものなり散士今回監獄事務視察の爲め一府二縣へ出張を命せられたり然るに其の巡回の資格右第三の場合に屬するを以て散士は爰に之が記事を掲ぐるに及んで毫も其の不可なりと意料したることとは之を列舉せずして只其の可なりと意料したる點のみを掲ぐるを以て讀者諒焉

散士本年二月九日奈良縣知事水野寅次郎閣下より京都府及岐阜愛知二縣へ監獄事務視察の爲め出張の命を受けたり依て履沖山磯太郎君と共に同月十四日午後一時四十二分奈良發にて京都其の他數ヶ所の停車

塲を経て馬塲に着し大津琵琶湖の邊り呼澤松の下古川樓に一泊し翌十五日浪笛一聲馬塲を發し唐崎の鐵橋を越へ湖邊に添ひ彦根の舊城を左に視伊吹山の麓を進行し有名なる關ヶ原の古戰場を経て漸く岐阜に着す即ち蓬萊館を以て旅宿と定め直に岐阜監獄に至る此の日や細雨霏々寒威凜々刺を門衛看守に通じ應接所に至り待つ事須臾にして第一課長紀野維益君來れり散士は紀野君の聲咳に接するは今を以て初とす然れども君が尊名は散士が嘗て群馬縣監獄書記たりし當時に於て大日本監獄協會雜誌第三十四號に於ける君が起草に係る無定役囚の屏禁處罰者に對する坐作の役を科するや否の解答及同雜誌第四十三號に於ける岐阜縣監獄署震災概況と題する一文に依て之を知る君は尤も永く監獄に奉職し居るものならん現今位階を有し其の談話盡く經驗より來りしものなるを以て一言一句人をして感動せしむ既にして第三課長清水直哉君來れり散士が今回視察の主たる點は作業事務取扱方にありしを以て詳細尋問せしに最も丁寧反覆に之が答を爲せり然れども此日や偶岐阜縣知事樺山資雄君山梨縣知事櫻井勉君を伴ふて同獄に來り監内を一覽するに會す依て散士は明日を約し典獄新

納謙助君に面會し暫時獄事に關する談話を爲して歸宿せり新納君は嘗て警部の職を奉せしものと聞く散士は其の言語に依て一見鹿兒島縣人たることを知る散士常に顧ふ鹿兒島縣人は概ね剛毅耐忍能く其の本務を盡す故に監獄の如き規律的事務に至ては尤も適當と思考す散士は親く君が顔貌に接して詞を交へしに君が榮轉日尙淺きにも拘はらず其の獄事に曉通なる事は感服の外なし散士は岐阜縣の爲めに此の良典獄を得たるを欣喜雀躍せんと欲す此の夜清水第三課長の私宅を訪ひ暫く獄事を談せり翌十六日再び同獄に至り作業に關する諸帳簿諸表其の他事務に付き一々詳細の説明を聞きしに散士が間に對し一々丁寧なる説明の勞を採られたり散士は實に愛に誌上を以て特に清水君の好意を謝するものなり既にして吉田書記の郷導にて工場及監房を一覽せり同日囚徒の現在員八百十四名刑事被告人百四十名なりと聞く散士は先第一工場より順次に第十一工場にて終り又女監をも一覽せり今其の作業の種類を掲ぐれば第一第二工場は搗米第三工場は機、裁縫第四工場は籠工、蘭繩工第五工場は足袋及美濃織の機業第六工場足袋底機第七工場木挽第八工場空虛第九第十工場は美濃織足

袋底等の機業にして第十一工場は木工蘭繩等あり右作業の中尤も盛なるものを擧ぐれば機工にして其の機臺の配置等誠に宜きを得戒護上衛生上非常に便利を得る處あり殊に第六役塲の如きは板張にして一點の塵埃無し蓋し雜役囚に於て絶えず洒掃を爲すものならん歎散士は工場を一覽して監房をも一覽せり監房十二棟の内四棟建築の異様なるものあるも他は總て完全にして監房外に障子あり寒威を防ぐに適當す此の構造は大阪府監獄監房の構造と殆ど同一なり是より病監及拘留監をも一覽せり偶散士が拘留監を一覽するに當て一名の惡漢なる被告人あり押丁が食湯を配付するに當て其の食湯を監房内より監房外の監守及押丁に注瀉したり嗚呼今日被告人の反則に制裁なきは獄事家の嘆する處なり散士は以爲らく此の如きものに對しては處罰の方法は無きも取締上嚴重に戒具を施すは尤も至當なることならんと思考す嘗て大阪府監獄未決監に於て藤原福太郎なるもの監房内に於て放歌詠意の適する處殆ど監獄を無視し當事者も非常に困難を來せし事ありと聞く依是觀之刑事被告人反則に處罰の方法を設くる目下急務なりと思考す既にして時辰五時を報す依て同獄を辭し

て旅宿に歸れり翌十七日岐阜を發車す少焉て車窓より望見すれば遙に金鉢の輝々たるを見る蓋し尾張名古屋城なること問はずして明なり既にして名古屋に着し翌十八日沖山雇と共に同獄に至る作業事務に就き安藤書記尤も懇切に詳細なる説明の勞を採られたり散士は典獄千頭正澄君に面語せり同君は嘗て静岡縣典獄として同縣の監獄建築を完成し今や愛知縣に來て再び監獄建築に従事せられ現今新築工事殆ど完了なりと聞く而して同新築の塲所は距離遠隔にあると且つ散士が視察事項の範圍外にあるとに依て之を一覽する能はざりしは尤も散士の遺憾とする處なり散士は翌十九日再び同獄に至り第三課長島津幸通君の郷導にて工場及監房を一覽せり今や同獄は建築中なるも新築監獄は殆ど三十丁餘の處にあり従て事務二個に分れ且つ新築の凡て直營なるを以て盡く囚人を使役せりと依て其の事務の煩多ある蓋し想像するに餘りあり然るに事務多忙あるにも拘はらず散士等に對し尤も懇切に事務取扱順序を説明せられたり依て爰に之を謝す而して同獄に於ける二月十六日の現在囚徒は千五百二十八人なりと嗚呼又三府に次ぐ否京都府よりも其の人員の點に於ては大監獄と云ふも不

可なし今同獄作業の種類を掲ぐれば小倉織、鼻緒、鼻緒身、蒲縄、搗米、搗麥、綿拵、木工、足袋機、木挽、提燈、時計縁、裁縫、蒲掃、女監に於ては緒衣機、獄衣繕等ありとす同日岡崎に至り翌二十日岡崎監獄支署を見る同支署長は正八位松永正素君にして作業に關する事務取扱順序其他諸帳簿尤も完備せり殊に戒護の如き其の行届き居ること實に他監獄支署の模範と云ふも不可なし同支署に於ける最多數の在監者五百四十名の時ありしと然るに今や囚人二百九十七人亦以て行刑の執行宜きを得る一般を窺知するに足れり而して同支署に於ける拘置監は十餘丁の東にあり而して裁判所は囚人監の近傍にありと聞く依て刑事被告人を裁判所に護送するの不便蓋し想像するに餘りあり散士は一日も早く裁判所の近傍に未決監を移轉せられんことを冀望するものなり今同支署に於ける監房の如きは尤も拙にして監房上下の板の如き實に薄弱にして是を破壊する亦難きにあらず然るに未だ逃走囚を出さざるは蓋し戒護精密能く其の肯綮を得るの致す處なり散士は巡回日數に限りあるを以て同支署に於ける囚徒の入房出房還房の實況を一覽せずして同支署を辭せしは實に散士の遺憾と

する處なり同日正午岡崎を發し稻荷停車場に着し伏見稻荷神社の正面萬岩樓に一泊し翌二十一日伏見より電氣鐵道に乗じ京都に着し直に京都府監獄に至る此日や日曜に屬せしを以て事務視察は之を見合せ同署に散士の舊知己長谷川巖君なるもの看守長を奉職し居るを以て同君に面會し談笑の際典獄六角耕雲君來れり依て同君に面會せり同君は大分縣の人にして嘗て廣島縣典獄たりしことありと聞く依て獄務經驗家なることは一見して之を知る而して同君は尤も快活なる人にして其の談話一言一句名言卓說ならざるはなし散士が同君と談話の際看守長獄則處罰に付する二囚の一件書類に典獄の決裁を仰がれたり然るに同等の反則にして一は軽く一は重し其の輕きものに對する理由は最早重くせんとするも放免の期日切迫し居るを以て止むを得ず小日數とせりと典獄は曰く假令執行する能はざるも刑罰は均一にせざる可からず加之ならず此の囚人にして若し餘罪等發覺の爲め引續き刑の執行を爲すが如き場合を生ずるも計る可からず然るに其の場合に至ては尙執行し得るにあらざるやとて日數を他の一囚と同等にせられたり此の一事を見るも其の意見の高尙なること一目明瞭なり次

に附加監視に就き現今の監視遵守項目は常に警察より注意して違犯を豫防するにあらずして只其の監視違犯を發かんに汲々たり此の如きは却て犯罪を殊更に生せしむるものなりとのことを一言せられたり散士は其の後數日にして清浦法相の獄政意見と題する一文を或る新聞に於て披見せしに監視の部分に就ては其の説六角典獄と符節を合するが如し嗚呼此の如き卓見なる真典獄は實に我監獄社會に於て得難きの人と思考す散士は翌日より數日間京都に滞在して獄務を視察せり然るに第三課長鹽見喜太郎君及監獄書記林殖君等懇切に事務上に付き説明の勞を採られたり、同獄現在囚徒は一千九人なりと聞く既にして散士は林書記の嚮導にて工場を一覽せり今其の作業の中に尤も美術的に屬するものは七寶燒なり其他の作業の重かるものを掲ぐれば搗米、鍛冶工、木挽、木工、抄紙工、鑿工、扇骨、綴糸繰、草履、裁縫、綿工、段通、靴工、糸節取、揚技等なり此の他に瓦工、煉化工等ありしと聞きしも之を一覽せず散士は同獄を去るに望で典獄に別を告げたり典獄曰く何にか視察せし點に於て奇怪なる取扱と感じたる點は無きか若し有之ば遠慮なく申出られよ何事に限

らず自己に於て估として怪まざることも他人の之を云ふに當て初めて其の不可なることを悟ること往々ありと散士は實に完全無欠なりと答へたり嗚呼世の獄務家たるもの常に此の六角典獄の一言を胸中に服膺せば監獄の改良は日に進歩するものなり若し自ら安じ完全無欠と思料したるときは其の監獄は日に退歩に屬し居るものなり故に平素當局者の胸中に於て不備不完全なりと思料し居るときは何事に限らず微細なる點に至る迄詳細に注意し着々改良の實を得るものなり京都府監獄の如きは實に大監獄なり然るに典獄の意思既に斯の如し他監獄の模範監獄たること豈一點の疑なからんや嘗て散士は某大監獄の第二課長が或る巡回者に語りし話中に當監獄も非常に不完全なりしが漸く整理し今や殆ど完備せりとの記事を或る監獄雜誌に於て披見せしことあり自ら以て模範なり或は完全なりと信するが如き監獄は凡て不備不完全なり凡を物満つると思ふ時は既に欠ぐるの時にして欠ぐるを以て汲々足らんことを冀望するときは却て完全圓滿なるものなり散士は二月二十四日迄滞在し翌二十五日京都を發し奈良監獄署に歸暑せり

彙報

●板垣伯と監獄事業 (讀賣二月十八日)

板垣伯は従て監獄改良及び貧民救助の事業に就て熱心なる由なるが、昨夜は此頃歐洲より歸朝せし非職神奈川縣典獄小川滋次郎氏及び昨夏來國より歸朝せし留岡幸助氏其他一二の専修家を招きて深夜まで談話したりといふ。

●板垣伯と出獄者 (東京二月十八日)

部下神田美以教會の原胤昭氏の首唱に係る出獄者保護事業に就て原氏等は板垣伯の監獄改良に熱心なるを知る處より特に伯に向ふて同所會堂に會する出獄者に一場の演説を爲さんことを望みたり伯は固より之を諾せざるにあらざれども目下些の病患あれば全快の上其請に從ふべしと挨拶せられしに聞く。

●改正條約實施の監獄費 (日本三月一日)

改正條約實施の上は外國人の犯罪者にして我監獄に拘禁せらるべきもの随分多からんとの事なるが外國人の拘禁せられたる監獄費は無論地方稅より支辨すべきものにあらざりて我帝國々庫の負擔たるべきものなれば政府は財政の整理成りたるなりと云ふものあり。

●免囚保護の近況 (世界三月六日)

神田美以教會内に在る八十餘名の出獄者中病者五名首者二名を除くの外は悉職業に従事して専心力行しつゝあり五名の病者は流行寒胃、脚氣等にして鈴木神保院長の施療を受け居れば不日全快に赴くべく人より救業の口定される者もあり又二名の首者は年齢制限ありて東

京育嬰學校より謝絶せられたる故適當なる按摩の師匠に照會中なり

●保護會寄附金

徳大寺侍從長香川皇后大夫土方宮相清浦法相を始めとして今日迄寄附せられたる金額は五百四十六圓に達せり而して警視廳及北海道築治監の吏員は俸給百分一づゝ、寄附することゝなれり之中には横濱貧民學校の生徒が一週間に一厘二厘づゝ貯蓄したる金五十八圓を寄附されたるものありて之を見たる放免囚の中には感激の餘り涕泣せる者ありと。

●横濱免囚保護會

横濱孤兒院長伊藤藤吉氏は原胤昭氏と同一の方法を以て今回出獄者保護會を創立せんとし其方法を問合せられたる由なるが來十日には原胤昭留岡幸助小河滋次郎等の諸氏同市に出張して免囚保護に關する演説を爲す筈なりと。

●免囚保護の現状 (北海二月十七日)

原胤昭氏の免囚保護に就ては此程の本紙上に記す所ありしが猶神田南神保町玉以美教會に或人の同氏を訪ひて目撃したる情況を掲ぐれば左の如し。

免囚の職業 神戸集治監より引取りし免囚數十名の内親戚故舊の引取人ある者は夫れん、歸國の途に就き現在同氏の許に在りて保護を受くる者、猶三十八人あり是等は皆孤獨依るなき者か然らざれば親戚故舊あるも世を憚りて引取る者なく又は惡友に交りて再び墮落せんことを憂ふるの餘自ら引取るるを欲せず永く恩師の膝下に在りて齋陶を受けんと望む輩なりと右の内原氏の盡力にて既に職業を得たる者十七人あり其の種類を舉れば大工四人、農業六人、鍛冶工一人、菓子職二人、車大工二人、按摩一人、納豆賣一人なるが其他は當分肉體

ひ出す度に頭上に矢を射らるる、極に感じ惡運へ深入したるの罪を悔ひ申候

●横濱の出獄人保護會 (北海二月十七日)

近來監獄事業に著しく改良進歩せしにも拘はらず之に伴ふべき出獄人保護の一段に至つては否とて其談話をさへ聞かざりしが此度の特赦減刑の結果として一時に出獄人を増加したるが爲め固らずも其機を促し東京に於ては原胤昭氏熱心之に從事し居れど地方に於ては未だ其企てかならず者なりしに横濱に於ては放免となりて囚徒の出獄後監視を引受くるものなき爲め今猶ほ戸部の監獄署に居るもの十餘名あり如何にも憐れむべき次第なりとて今度同地の慈善家相計りて出獄人保護會を組織せんとし其主任者には是迄戸部に在りて人知れず感化事業に盡力せる伊藤藤吉氏を推すことになりしよし。

●免囚人保護演説會 (國民三月四日)

免囚人保護演説會は一時十八日午後七時より横濱會館に於て閉會したる由當日は聴衆者約五百名滿場立錫の地もなき有様なりしが第一の演説者留岡幸助氏は「犯罪人は改良せざる乎」の演題にて學理上實踐上の論を述べ次に小河滋二郎氏は「監獄の改良如何は國威の消長に關係し出獄人保護事業の未だ我國に發達せざるを痛論し伊藤藤吉氏は横濱出身保護會企畫の事を通べ次に原胤昭氏は東京に於ける免囚人保護の實況を述べ飲食したるは十時頃なりしと。

●獄務研究會 (富山三月十二日)

同會は明日夕景より富山市荒町の同會場に於て例會を開き前日に引續き刑法監獄規則等の講話を了り後職員三輪榮太郎氏の出題に掛る「死刑者の遺體に其遺族に下附する」と否と監獄の構内に屬すべきものなりや又同下附を許されたる遺骸を正式に葬送を行ふは其制憲法

らず土工の人足に出し日を勞働せしめ居るが成續いづれも其好にて骨身を惜まらず立働らき中には從來の職人社會に行はるる無類の弊風を慨き卒先して之を矯正せん志し居る殊勝の輩もあるやむ様なきの請甚だ好しと云ふ。

實錢と寄宿舍 免囚が貯蓄し來れる金圓は悉く還宿者に貯金せしめ其の通帳及び實印は原氏のを保管し預き入用の際引出さしむる都合なれば其の法極めて安全なりと悦び居るも又た職工一名の賃銀は普通より廉なりとめて一人一日金十錢づゝとし此の中より食料若干を支持し薪炭代布圍料、扇根代等を世の慈善家より寄贈されし義捐金を以て補充する事なせりされど漸次職業の熱練するに隨ひ實錢を増すべければ世の慈善金に依らずして自營するの期も遠からざるべし又た差當り相當の屋宇なきより止むを得ず教會を借受て寄宿舍に充居れども何分不便を感ずると諺かられば早晚世の義人俠士より義捐金を募り不完全ながらも一字の寄宿舍を設けて事業の擴張を圖りたき希望なりと語られたり。

原氏の徳化 同氏が免囚に對する同情の深厚なる待遇の懇篤なる敬愛愛撫に到らざる所なく竭する所なく宛がひ赤子を視るが如くなるなり一同は皆其の徳に化し情に感じ天地唯一の恩人高師として感謝の意を表し居れり殊に其の細君某氏が其夫を助けて心を盡し懇切に勧り慰むる事情には鬼を挫ぎ暴徒も只管感泣の外なく宛がひ慈母の如くに敬ひ懐き居るもぞ現に神戸市の強盜殺人犯なる奥山政吉なる者が歸國の後原氏に宛て送り越したる葉書中左の語あり以て現情免囚の徒が作に原氏夫妻を絶するを推知すべし。

「取分け有難きは返歸國の節奥様が身重なるにも關らず夜曉近くにて燈火の下に私の衣裳を美經し玉ひし一事に御座候依しし之を思

を如何する及び監房不足の隠分房法を行はんに同罪買のものを同房に集めんとすれば初犯再犯を混同せざるべからず又初犯再犯を分房する時は常罪買の者を同房に混せざるべからず右の場合に於ては罪買、數犯孰れを同居せしむるを可とすべきの二題を討議する等なりといふ

●免囚保護院設立

(國民三月十七日)

千葉縣千葉町字寒川の佐久間吉太郎氏は此程免囚保護院を設立し昨今現に免囚者の寄邊なきものを救養教誨しつゝある由なるが氏一人の力にて而かも薄資なれば弘く世の志士仁人に訴へて義捐金を募集する云ふ

●感化保護院の取調

(徳嶋三月八日)

富山縣監獄署にては先般裁判の恩典執行以來已に放免せしもの百四十餘名に及びたるも幸に未だ罪惡を犯し入監するもの稀なれども萬一保護法其宜しきを得ざるに據り再犯するに至り皇恩に背くのみならず縣民の不幸太甚しければ木名瀬典獄は此邊に大に苦慮せられ取急き此際感化保護院を設立し不其少年の感化と共に免囚の保護を周到ならしめんとて目下田村第二課長は各府縣に於ける感化保護事業の組織成蹟等を取寄せ専ら其調査に従事し居れりといふ

●免囚救護

(徳島三月六日)

富市助仕町の三浦富太郎新居勝清平の両氏は特赦放免囚を救済せんが爲め居く義捐金を募り一の授産場を設立せんとて既に河合裁判所長松井檢事生、木間瀧書記、阿南警部長、甲斐典獄、其他縣會議員等の賛成を得たれば早々義捐金募集に着手すべしといふ今其方法を聞に左の如し

●放免人義捐募集方法

欄口に困難せる輩多きを見て管弁典獄は恩赦の大御心に悖反するこゝあるを怖れ自ら奮つて之が保護の方法を研究し遂に三井三池炭礦會社の事務長島田純一氏其他有志の士と商議して保護會社を組織し放免囚徒は同炭礦會社に於て引受け相當の賃錢を與へて採炭事業等に服せしむること約定し普通之工夫と同様な待遇を以て使用しつゝありと云ふ放免囚に取つては僥倖此上もなきは勿論社會全体の上下り論するも至善の方法と謂ふべし

●特赦免囚救護の計畫

(徳島三月十一日)

適特赦減刑を以て放免の恩典に浴じれる囚人を保護せんこの目的を以て鹽崎重修(重宗院住職)、早崎富三郎の二氏が之れが發企人となり其方法を對立せんとて一昨日午後一時より阿南警部長、甲斐典獄、山縣保安課長、山尾徳島警察課長、監獄書記及び鹽崎重修、早崎富三郎氏等は重宗院に會合し、種々協議の末市川利喜藏の目下共助し居る免囚保護の爲め市川の手許には多少の金額も集り居るべければ更に募集せし金額を之と合し市川をして免囚を監督せしめ一の授産場を設立すべく之れが爲め鹽に恩賜金をも該資産の中に加へたしこの意見を有するものあり結局之に決せしも恩賜金の義は知事の承諾を経ざるべからざれば追て知事に申請せん事とし尚委員、賛助員を置く事とし委員は縣廳高等官の中より一名とし其他縣廳中より若干の賛助員も委員各郡に委員、賛助員を置く事としたるが三浦富太郎氏の發起に係る救護法と合併せんとの説ありしも三浦氏は鹽崎氏等の發起あるを懸き自家計畫を廢して之に譲ることとなりたる由

●免囚の保護

(山陰一月廿日)

免囚保護會設立の件につき一昨日午後一時より寺町宗泉寺に於て清水寺、野淵寺、西光寺、妙興寺、洞光寺、善光寺、常教寺、天台寺、

一救護方法は當局官及び賛成諸君と熱議の上取て遺算杜撰の舉なきを期せん

一義捐者の寄附は多少を論せず住所氏名明記して徳島日々新聞は北村近太郎宛にて普通社へ、徳嶋新報は藤岡八次郎氏にて新報社へ各投せらるべし

一義捐者は別に領收證を發せず金額氏名を徳嶋日々新聞、徳嶋新報に掲げ其領收證を爲すべし

一義捐者の氏名金額を掲載せる新聞紙は放免人へ贈り其厚意を謝せしむべし

一義捐金の募集期限は本月廿五日限りとす

右に就き本社及び徳嶋日々新聞社は其舉を贊助し無料にて廣告の掲載を承諾したり

●三重免囚保護會

(近江二月九日)

既記の如く去る六日午後一時より富市寺町影見寺に於て開きたる三重免囚保護會臨時總會の出席者は久保會長、新妻典獄を始め定務、地方各幹事、會員等にして席定るや定務幹事長岡大仁氏は會長に代りて沿革成蹟の報告を爲し次に議事を開き會則中修項改正及び追加の件を可決し次に保護場設立及附屬事業場開始の件、感化院併置の件附たり院則編製の件等を議し感化院々則編製は定務幹事に依頼する事に可決し尙ほ名譽會員を置く事を議し是亦原案に決し終りに長岡幹事は一身常盤井法主より本會の斯く隆盛に赴きたるは會員諸氏の盡力に因る大に満足せりとの挨拶ありたる旨報告し午後五時頃散會したり尙ほ成蹟要領は追つて掲ぐべし

●三池集治監の放免囚徒

(日々二月四日)

宗泉寺の各住職等二十餘名會合して協議會を開きしが何れも宗派に關せず慈善家たるの資格にて協議をなさんとて種々懇談を爲し大體の議は則ち免囚を保護する爲め其機關を設くるの一事は何れも賛成にて議終り直ちに臨場の山上典獄に托して其旨知事に具申する事となし尙其保護因を密せしむる寄宿舍につき豫算を定めて後に熟議せんとて典獄に參考の爲め豫算を示さんことを求め典獄は之を諾して昨日中に廻付せる答にて本日午後より再び開議其方法を決定すといふ中には此の議にして若し難からずんば自分一個してなりとも設くべしと熱心を表せる者ありしとぞ

●放免囚徒の保護法

(下野二月十九日)

鹽谷郡船生村大字船生の齋藤兵吉厨木澤儀藏の兩氏は申合せの上今回特赦の恩典に浴して出獄したる近郷の者を調査したるに重罪犯人たりし者は入獄中多くは機械の業に従事したることを知り徴力廣く之を保護すること能はざる故今は先づ此職業習得の者に限り之を保護せんとするの精神を起し去十一日機械機械を購入し超けて十五日より就業せしめたるに忽ち四五名を收容し得たる由なるが尙別に頼る所なきものを集め新業に従はしめ相當の賃錢を與ふる事となしたる由誠に羨望なりといふべし今其規定を聞くに左の三條に過ぎずといふ

第一條 就業は午前六時三十分より始め正午に休憩し午後零時四十五分より再就業し同七時を以て終業時間とし九時より寢に就かしむる事

第二條 製品は毎日之を檢査し通帳を渡し置き受取を記し賃金は毎月二回に分ちて支拂ふ事

第三條 工人運善を貫徹せしむる爲め在獄中改悛の情現れ成績著

しくして賞状を受け相當の學問智識ある者を選びて監督主任とし、
總ての事を處理せしめ且つ酒善改過の談話をなすしむる事
但監獄主任に服せず工場に適せざる者は退擧せしめ其旨
新聞紙上に廣告する事

●出獄者保護會

(山梨二月十九日)

土屋七右衛門氏の首唱に係る出獄者保護會は發企人を各宗教家及官
吏新聞記者等に依頼する事に決し不日會員勸誘に着手する由

●保護畫策

(大阪朝日)

大阪府司獄官等の發起にて曾て天王寺村に感化保護院を設立し出獄
後の罪因に獨立の事業を授け遷善の方法を設けたるも資金缺乏のため
幾んど有名無實の姿なりしが今回の大變に就き減刑の恩令に浴し
て赦免せられたるもの多きに因り小林當府典獄は知事及市府會議員
に謀り此際内務より特に御下賜あらせられたる一萬二千三百圓の内
幾部分の分與を願ひ尙有力家の義金を募りて在來の感化保護院を擴
張して御仁慈の御恩召に反き奉らざる標爲さんと目下小林典獄主幹
となりて専ら其方法を取調べつとありと云ふ

●放免囚感化の計畫

(京都新聞)

京都感化保護院の臨時事業として今回放免減刑の恩令に與りて出獄
せし者の中頼る所なき羸寡孤獨を引取り正業に就かしめんとの計畫
ある事ハ既に報道せしが一昨日午後六時より府市議員を始め諸會社
各銀行員を招き先づ山田知事より今回の恩令に與つて出獄せし者の
内眞に寄る邊なき徒五十名計を感化保護院の臨時事業として引受け
感化保護を加へ正業に就かしめたる趣意を述べ次に内發甚三郎氏よ
り券當り京都監獄署東隣の錦染工場中の建物へ借入れ食料其他器具
渡渡の經費凡八百圓計を要する事及び臨時事業の計畫旨趣を述べ次

に四村七三郎氏より現在感化院の實況及從來の經過を報告したるに
何も贊成の意を表し即座に出金する者ありて立ちに二百餘圓の金額
を得たるに依り東枝吉兵衛、上野八郎、古川吉兵衛の三氏を臨時委員
に囑托し昨日より市會議事堂内に該事務所を設け家屋修理、物品の
購入、寄附金の募集に着手す

●減刑出獄者の再犯に對する處刑方針

(福嶋二月廿五日)

折角の恩令に浴して刑期を減ぜられ出獄したる身にして早くも其の
御趣意を忘却し強盜盜其他の悪事を働らくに至るもの續々として絶
へざるなり其筋に於ては今後尙減刑に依り出獄するもの、見懲しめ
は此等の再悪事に對しては假令へ僅少の金品を窃取したる小泥棒と
雖ども法律に規定する最重の刑に處する方針を採らる、由にて警視
廳及各警察署より送致する罪因の一件書類中減刑出獄者の再犯には
特に其の趣きを記入すといふ

●北海道釧路分監の騒動

(東北三月九日)

去月廿三日には同監の囚徒百四五十名、出役先に於て薪運搬中一囚徒
が他囚と口論せし爲看守之を制止せしに譲て合鬪したりけん一同
種々の器物を以て看守目懸て打てかり殺せんと糾呼するに看守
も帯剣を抜て渡り合ひ非常の騒動となり看守長其他看守も大勢出張
トヤツと取鎮めしが囚徒には三名の負傷ありしと、尙同監は近來囚徒
の兇暴實に甚しく看守は非常の危険に陥り居るといふ